事業に関する中期的な計画に対する当期の実施状況（令和２年４月１日から令和７年３月31日までの間）

中期目標	中期計画
【目次】	
（前文）大学の基本的な目標	
Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標	Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画
（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標	（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための計画
（2）教育の実施体制等に関する目標	（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための計画
（3）学生への支援に関する目標	（3）学生への支援に関する目標を達成するための計画
（4）入学者選抜に関する目標	（4）入学者選抜に関する目標を達成するための計画
Ⅱ　研究に関する目標	Ⅱ　研究に関する目標を達成するための計画
（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標	（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための計画
（2）研究実施体制等に関する目標	（2）研究実施体制等に関する目標を達成するための計画
Ⅲ　診療に関する目標	Ⅲ　診療に関する目標を達成するための計画
Ⅳ　社会との連携や社会貢献に関する目標	Ⅳ　社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための計画
Ⅴ　国際化に関する目標	Ⅴ　国際化に関する目標を達成するための計画
Ⅵ-1　組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標	Ⅵ-1　組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画
（1）組織運営の改善に関する目標	（1）組織運営の改善に関する目標を達成するための計画
（2）事務等の効率化・合理化に関する目標	（2）事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画
Ⅵ-2　外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標	Ⅵ-2　外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための計画
Ⅵ-3　評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標	Ⅵ-3　評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための計画
Ⅵ-4　施設設備の整備・活用等に関する目標	Ⅵ-4　施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための計画
Ⅵ-5　法令遵守に関する目標	Ⅵ-5　法令遵守に関する目標を達成するための計画

中期目標	中期計画
（前文）大学の基本的な目標 順天堂大学の基本的な目標 本学は、学是「仁」、理念「不断前進」に則り、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材を求め活躍の機会を与えるという「三無主義」の学風を掲げ、6 学部 3 大学院研究科 6 附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会における医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出と国際レベルでの社会貢献に取り組む。 これらを実現するために中期目標・中期計画において次の事項を重点目標とする。 （教育）確かな学問体系に立脚し、学際的に新たな学問領域を探求しながら、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、未来を切り拓く創造力、国際性と指導力を備え、生涯に亘り高い水準で能動的に学び続ける人材を育成する。特に、本学の掲げる理念・目的やビジョンを実現するため、教育の内部質保証システムを構築し、恒常的・継続的に教育の質の保証と向上に取り組む。 （研究）国内外から卓越した研究者が集い成長していくことのできる学術研究環境を拡充し、世界的水準での魅力ある研究や新しい学問分野・融合研究の発展及び創成を促進する。イノベーション創出を目指して、次世代に向けた研究を推進するとともに、企業・大学との寄付講座・共同研究講座の開設を促進し、研究成果、知的成果を広く社会に還元する。 （診療）医学部附属 6 病院合計で総病床数 3,443 床を有する日本最大規模の強固なネットワークを形成し、先進医療、地域医療、救急医療、周産期医療、高齢者医療、精神医療、がん治療、新規医薬品・医療材料・医療機器の開発等、国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性を発展させつつ、総合力に秀でた医育機関として、病診連携・病病連携を強化し、国際レベルでの拠点病院としての機能を果たしていく。医療の更なる質的向上を達成し、患者中心の安心・安全な医療を充実させるととも	

中期目標	中期計画
に、臨床研究実施体制を強化し、医師主導治験や他施設との共同臨床研究を推進する。 （社会貢献）地域社会や産業界等との幅広い連携活動のもと、社会的な役割やニーズに対応した「教育」「研究」「診療・実践」を推進し、その成果を積極的に情報発信するとともに、社会・地域に還元する。 （国際）国際的な「教育」「研究」「診療・実践」のネットワークを拡充することにより、世界的研究・教育拠点としての機能を強化し、その発展をリードできる人材の育成を図るとともに、知的財産を社会に還元する。	

Ⅰ　教育

中期目標	中期計画	当期の実施状況
Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標 **（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標** ○教育課程、教育方針に関する基本方針 【学士課程】 1）ディプロマ・ポリシー等を踏まえ、学生がグローバルな視野のもと、自律的な学習能力及び実践力を有するように育成するため、専門的基礎知識と総合的判断力を有機的に養うことを可能とする教育内容及び方法を整備・改善し、学ぶ意欲を刺激する国際通用性の高い学士課程教育を実施する。	**Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画** **（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための計画** ○教育課程、教育方針に関する基本計画 【学士課程】 1）学部ごとに学士としての到達目標を明確にし、学生が学位取得に至るプロセスを自覚できる体系的なカリキュラムの充実を図る。	**Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための実施状況** **（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための実施状況** ○教育課程、教育方針に関する実施状況 【学士課程】 （医）ディプロマ・ポリシー（以下「ＤＰ」という）とカリキュラムとの関連性については、カリキュラムツリー、カリキュラムマップにて明示している。カリキュラムマップについては、ＤＰに基づいて制定したコンピテンシーの達成度を評価するため、各授業科目とＤＰ及びコンピテンシーの関係を示した「カリキュラムマップ・コンピテンシー達成レベル表」として新たに策定した。 （スポーツ健康）1 学科 6 コース制の導入に伴い、ＤＰの見直しを実施し、「履修要項」にカリキュラムツリー等を明示して学生へのカリキュラム体系の周知を図っている。また、ＤＰに基づいて制定したコンピテンシーの達成度調査を実施している。 （医療看護）看護学生が卒業時に身につける能力をＤＰに 5 つ掲げ、それらを達成するために必要な能力を 10 分類、48 項目のコンピテンシーとして設定している。 （保健看護）令和 6(2024)年 4 月の定員増に伴い、保健師課程を選択制とする教育課程変更承認申請を行い、認可された。看護学生が卒業時に身につける能力をディプロマ・ポリシーとして

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		7 項目、それらを達成するために必要な能力をコンピテンシーとして 11 項目設定している。 （国際教養）授業科目に適切な番号を付し分類したナンバリングにより、学修の段階や順序等を表して教育課程の体系を学生へ明示している。シラバスにナンバリングを明示し「教育課程概要（授業科目一覧）」と照合して履修（授業科目選択）可能となるよう実践している。 （保健医療）理学療法学科・診療放射線学科それぞれの学生が身に付ける能力をＤＰに 8 つ掲げ、それらを達成するために必要な能力を理学療法学科では 11 分類 48 項目、診療放射線学科では 11 分類 36 項目のコンピテンシーとして設定している。 （医療科学）学部設置認可申請時に組まれた体系的なカリキュラムにより教育を実践している。学科ごとに、ＤＰに基づくコンピテンシーを設定しており、コンピテンシー達成レベル評価から、ＰＤＣＡサイクルを廻し、カリキュラムの充実を図っている。 （健康データサイエンス）学部設置認可申請時に組まれた体系的なカリキュラムにより教育を実践している。ＤＰに基づくコンピテンシーを設定している。
	2）幅広い教養を涵養することを基本とし、その上に専門的能力を育成するために、人間性、社会性、国際性、専門性に配慮した教育内容を充実する。	（医）「知性と教養、感性溢れる医師」を育成するための教育として「医療プロフェッショナリズム入門」「医療入門」「医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム」「医療体験実習」等の授業科目を設定している。 （スポーツ健康）「一般教養科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」及び「専門科目」に区分し、それぞれの教育が有機的に連動して段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成している。 （医療看護）ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「医療看護の統合と発展」の 4 つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。 （保健看護）「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の 4 つの科目群に編成し、それぞれを段階的に身に付けられるカリキュラムを編成している。 （国際教養）「グローバル市民の育成」という教育目標に沿ったカリキュラム構成により、国際的な教養に加え、「グローバル社会」「異文化コミュニケーション」「グローバルヘルスサー

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		ビス」の３領域からなる、文化を越えて活躍できる専門性を身に付けるカリキュラムを編成している。 （保健医療）人間や社会に対する基本的知識を修得できるよう、１年次に「基礎分野」科目を配置している。 （医療科学）人間や社会、専門分野に対する基本的知識を修得できるよう、１年次に「基礎分野」及び「専門基礎分野」科目を配置している。更にマナー研修や企業説明会を開催し、臨地・臨床実習や就職を見据えた教育を行っている。 （健康データサイエンス）人間に対する理解、社会に関する知識、外国語能力の向上が図れるよう、「一般教養科目」を配置している。
	３）自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやＩＣＴの活用等による双方向型の教育方法及びインターンシップ等の体験型の教育方法を強化・充実する。	（医）一方通行となりがちなオンデマンド動画配信による授業に双方向性を持たせるべく、学習管理システム manaba 上で質問の受付や質問に対する回答を掲載し、学生間で情報共有できるようにしている。また令和５年度においては全開講科目のうち68.97％でアクティブラーニングを取り入れている。なお、臨床医学の系統講義では、基礎的知識の修得はオンデマンド動画配信授業にて行い、対面授業では Meet the Professor やケースプレゼンテーション等のアクティブラーニングを取り入れた新しい授業形式を実施している。 （スポーツ健康）全科目のうち約７割の授業でアクティブラーニングを実施している。また、ほとんどの授業でＩＣＴを活用した双方向型の授業を取り入れている。 （医療看護）全開講科目の約６割でアクティブラーニングを取り入れている。オンラインによる双方向型の授業、オンデマンドによる繰り返し視聴による国家試験対策授業を実施している。 （保健看護）自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやＩＣＴの活用等による双方向型の教育方法を強化・充実している。１年次前期に「地域包括ケア探索実習」、４年次に「地域包括ケア実践統合実習」、１年次後期に「多職種連携医療体験実習」を実施し体験型実習を通じた教育を充実させている。 （国際教養）アクティブラーニングやクリッカー機能アプリを用いた双方向型の教育方法を実践している。授業科目「フィールドワーク」で実務経験を有する教員による職業選択とインターンシップを開講し、講義、学内キャリア支援セミナー受講、インターンシップ参加を機能的に融合したキャリア教育を実践している。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		（保健医療）全科目の４割にあたる授業でアクティブラーニングを実施している。 （医療科学）自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやＩＣＴの活用等による双方向型の教育方法の強化・充実を図っている。 （健康データサイエンス）自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやＩＣＴの活用等による双方向型の教育方法を強化・充実を図っている。
	４）国際化を推進するために、ＴＯＥＦＬ評価による英語力の強化を図る。	（医）1 年生全員に年間 2 回 TOEFL ITP 学内受験を実施し、英語力の強化、見える化を図っている。令和 5(2023)年度の第 1 回（入学時）の平均点は 531 点、第 2 回（12 月）の平均点は 548 点であり、17 点上昇している。また年 2 回開催される全学部の合同英語教育連絡協議会にて、各学部の TOEFL 教育の特徴やスコア向上のための工夫について、情報交換を行っている。 （スポーツ健康）TOEFL 評価を活用した英語力強化を推進するため、1 年生全員と希望する上級生が年間 2 回 TOEFL 学内受験を実施して英語力の強化を図っている。ＳＡによる勉強会の開催や e-learning 等の活用により、1 年生受験者は 2 回目の平均点が 1 回目よりも 20 点上昇した。 （医療看護）1 年生全員に年間 2 回 TOEFL 学内受験を実施し、英語力の強化を図っている。2 回目では平均点が 20 点上昇し、英語力向上の実績となっている。 （保健看護）国際化を推進するために、1 年生全員に TOEFL 学内受験を年 2 回実施し、英語力の強化を図っている。2 回目では平均点が 23.8 点上昇し、英語力向上を認めた。 （国際教養）1 年生全員に年間 2 回 TOEFL 学内受験を実施し、英語力の強化を図っている。1 年生は TOEFL ITP を 4 月と 12 月に実施し教育・学習効果を測り、2 年生は TOEFL ITP を 12 月に実施し 1 年次からの成績の伸びを測った。1 年生の 12 月（2 回目）は 4 月（1 回目）よりも平均点が 29 点上昇した。なお、2 回目の最高得点 667 点の学生は全学部の中で最高得点を獲得した。 （保健医療）1 年生を対象に、4 月及び 12 月に TOEFL 試験を実施した。12 月実施は 4 月と比較して平均点が 34 点上昇し、学生の英語力向上につながった。 （医療科学）1 年生を対象に、4 月及び 12 月に TOEFL 試験を実施している。更に、他学年生にも TOEFL 試験を受験する機会を設け、英語力強化を図る。また、浦安・日の出キャンパスの英語

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		教育充実のため、英語教員組織の強化に取り組んでいる。 （健康データサイエンス）1年生を対象に、4月及び12月にTOEFL試験を実施している。更に、他学年生にもTOEFL試験を受験する機会を設け、英語力強化を図る。また、浦安・日の出キャンパスの英語教育充実のため、英語教員組織の強化に取り組んでいる。
	５）学習の活性化を促進するために、教材、機材、教育環境等の整備、充実及び開発を図る。	（医）講座別ではなく、臓器別・病理病態別の統合講義が開始されて以降、独自の資料集を充実化させている。学生からの要望を踏まえ、オンデマンド動画配信の充実を推進するため、専用の動画サーバーを整備している。また、電子教材による医学教育支援サービスiSmartを導入し、医学書院が出版する標準医学シリーズを中心とした32タイトルの教科書をｅテキストとして利用できる環境を整備した。 （スポーツ健康）学修環境改善のため2号館11番12番教室について内装の改修、什器とAVICT機器の更新を実施。11番教室については空調設備の更新も併せて実施。更に第一体育館バレーボール館・第2コスモホールの大型空調設備を更新し、実技実習授業の環境を整えた。 （医療看護）オンライン授業（オンデマンド）環境の親和性の向上および消費電力削減を推進するため、各教室の設備をアナログ環境からデジタル環境への更新を行っている。加えて、マルチメディア教室のプリンター・ディスプレイのリプレースを行うなど、ＡＶ機器の充実を図っている。 （保健看護）学習の活性化を促進するために、継続的に視聴覚教材や機材の検証、ＡＶ機器、教育環境等の整備・充実を図っている。 （国際教養）ハイフレックス型授業を推進するための機材、環境等の整備、充実を図っている。授業におけるレポートや資料、論文の作成などの機会には日常的にパソコンとインターネットを活用し、授業担当教員への質問、履修登録、成績や休講情報の確認、授業担当教員・事務からの連絡、更には就職活動などの多くもＷｅｂサイトを通じて行っており、学生用Wi-Fi環境を整備している。 （保健医療）国家試験への取組として、4年生専用の勉強部屋を整備した。4年生全員分の個人学修スペースを確保し、集中して国家試験対策に取り組めるよう環境を整えている。御茶の水センタービル2階のラーニングコモンズ全座席に電源コンセントを増設し、ノートＰＣやタブレット端末などの機器類の長時

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		間利用を可能とした。 （医療科学）学習の活性化を促進するために、継続的に視聴覚教材や機材の検証、ＡＶ機器、教育環境等の整備・充実を図っている。また国家試験に繋がる学修として、第２種ＭＥ試験や心電図検定試験、遺伝子分析科学認定士試験の受験を推進しており、そのための補習を行っている。合格者には表彰を行い、学生の学修意欲向上に取り組んでいる。 （健康データサイエンス）学修成果の可視化を目指した取組みの一つとして、教育課程外における資格取得支援を行っている。令和５年度は、ＩＴパスポート試験（情報処理推進機構）の対策講座を実施した。
	６）学部等の教育目標の特性に応じ、履修状況、資格の取得状況及び卒業後の進路等の定量的・定性的指標において高い水準を維持する。	（医）標準修業年限内での卒業率（ストレート卒業率）は、令和６年３月卒業者 94.3%、令和５年３月卒業者 96.4%、令和４年３月卒業者 97.7%である。医師国家試験合格率（既卒者含む）は、第 118 回（令和６年３月発表）98.5%、第 117 回（令和５年３月発表）100.0%、第 116 回（令和４年３月発表）96.4%である。ストレート卒業率、医師国家試験合格率共に高い水準を維持している。 （スポーツ健康）令和５年度卒業生のうち、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）245 名、特別支援学校教諭一種免許 46 名、養護教諭一種免許 13 名が免許状を取得、教員採用試験には 35 名が合格し、教職関係への就職者数は高い水準を維持している。また、精神保健福祉士国家試験には２名が現役で合格をしている。なお、企業就職希望者においても 247 名中 245 名が内定を取得しており、高い水準を維持している。 （医療看護）看護師、保健師、助産師の資格取得状況については、単位所得状況と国家試験受験申請をもって把握している。附属６病院への就職率約 90%を維持している。国家試験合格率（令和５年度）は看護師 100%、保健師 99.2%、助産師 100%と高水準である。 （保健看護）国家試験ＷＧを中心に学生への学習指導を強化し、看護師国家試験（合格率 98.3%）、保健師国家試験（合格率 96.0%）において高い水準を維持している。 （国際教養学部）令和６年３月卒業者（第６期生）の企業・公務就職率は 98.7%で、第１期生からの６年間平均は 97.9%と高水準を維持している。教職課程は 12 名が中学校・高等学校教諭第一種免許状（英語）を取得し、そのうち教員就職者は、公立学校教員採用試験を受験した６名が全員合格し、同じく採用試験

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		を受験して合格した既卒者２名と共に公立学校正規採用となった。（100％合格は学部開設後３度目） （保健医療）令和５年度の国家試験において、理学療法士国家試験の合格率は100％（111名合格）、診療放射線技師国家試験の合格率は99.1％（111名合格）であり、高い水準を記録した。
	７）「教職課程センター」の機能の充実を図り、教職課程コアカリキュラムを活用した教職課程の質保証を踏まえた教員養成課程の拡充を目指す。	（大学）教職課程センター運営委員会（3月22日）を開催した。教育職員免許法施行規則改正により、義務化された教職課程自己点検評価への対応状況を検証した。 教職課程の充実を図るために両課程によるＦＤ・ＳＤ研修会を開催した。（①令和６年３月21日、②令和６年３月27日）。 （スポーツ健康）教職委員会や進路相談室が中心となり、教員を目指す学生の対する支援を実施した。その結果、正規教員、常勤講師、非常勤講師併せて63名が現役で教員になることとなった。 （国際教養）教職課程指導室の整備と高等学校長経験者を客員教授として任用し、教職課程履修者の指導体制の充実を図っている。教員就職者は、公立学校教員採用試験を受験した８名（現役学生６名、既卒者２名）が全員合格し（100％合格は学部開設後３度目）公立学校正規採用となった。これにより学部開設後累計で教員採用試験合格者22名、教員就職者27名となった。また、東京都が全国で先駆けて実施した教員採用試験３年次早期受験は、９名受験して８名が合格し次年度の二次試験へ進んだ。
【大学院課程】 ２）本学のディプロマ・ポリシー等を踏まえ、世界に通じる研究・開発能力を有する人材として、国際社会で力強く活躍できるように教育内容及び方法を整備・改善し、体系的な教育を実施する。	【大学院課程】 ８）大学院の各課程における到達目標に応じ、学位取得に至るプロセスを明確にした体系的なカリキュラムを充実する。また卓越した研究者が集い成長していくため、学術環境の拡充を図り、大学間連携を積極的に推進する。	【大学院課程】 （医学研究科）ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの関連性及び学位取得に至るプロセスをカリキュラムツリー、カリキュラムマップにて体系的に明示している。博士課程はコアプログラム（基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ）、専門プログラム（専門教育、専門研究）にて体系的に構成されている。修士課程は７つの学位プログラムを有し、学位プログラム毎に修士（医科学）又は修士（公衆衛生学）のいずれかの学位を取得することが可能である。各学位プログラムは、基礎教育科目、専門教育科目、特論科目、研究指導科目にて体系的に編成されている。なお、大学間連携を推進し、令和６年３月時点で29大学と大学間連携（特別研究学生交流協定等）の協定を締結している。 （スポーツ健康科学研究科）博士前期課程のカリキュラムは、入

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		学後の半年間で、基礎科目を集中的に開講する構成となっており、修士論文作成にあたり必要な基礎知識の修得、情報検索等を短期集中・能動的に学ぶことにより、以後の各自の研究を無理なく進めることが可能になるように体系的に編成している。 博士後期課程では、特別研究、特別講義、特別演習、特論を通じて、専門研究の深化と総合的なスポーツ健康科学の確立、実践的展開を意図した独創的で高度な教育プログラムを実現すること可能になるように体系的に編成している。 （医療看護学研究科）カリキュラムを共通科目、専門科目、演習・研究に分けて編成し、それぞれを段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。教育要項にＤＰと各授業科目との関連を明示し、学位取得に至るプロセスを明確にしている。 （保健医療学研究科）授業科目を共通科目、専門基礎科目、専門科目、演習・研究指導の４つに分け、それぞれを段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。シラバスにＤＰと各授業科目との関連を明示し、学位取得に至るプロセスを明示している。
３）本学の多様な学術的研究を背景とし、先端的な専門性の高い知識を修得でき、高度な専門的能力と独創的な研究能力を兼ね備えられるように専攻分野の特性に応じた教育成果の向上を図る。	９）創造性豊かな優れた研究・開発能力と高度な専門的知識・技能に加えて社会全体を俯瞰する広い視野を涵養するために、精深な理論教育及び実践教育を実施し、研究上の倫理教育の強化に向けて組織的に取り組む。	（医学研究科）医学研究科における理論教育及び実践教育については、博士課程ではコアプログラム（基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ）、修士課程では基礎教育科目、専門教育科目にて実施している。研究上の倫理教育の強化のため、APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）を導入している。大学院低学年コースは博士課程２年次、修士課程１年次までに受講を必須としており、大学院高学年コースは博士課程・修士課程とも修了時までに受講を必須、修了要件としている。 （スポーツ健康科学研究科）研究倫理教育の重要性に鑑み、全大学院生を対象に、入学後３カ月以内に研究倫理教育プログラム（独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の「研究倫理ｅラーニングコース」もしくは一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）の「ｅラーニングプログラム」のいずれか）の受講と修了を義務付けている。全大学院生が受講を完了している。 （医療看護学研究科）看護学研究方法論や看護倫理特論、看護理論特論、演習等において理論教育及び実践教育を実施している。APRIN e-learning プログラムを導入しており、倫理審査申請にあたっては事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。 （保健医療学研究科）研究倫理教育強化のため、APRIN e-

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		learning プログラム（eAPRIN）を導入している。修士課程１年次に受講する大学院低学年コース、修士課程修了時までに受講する大学院高学年コースを設定し、それぞれ受講必須としている。
	10）時代の動向と社会の要請に対応するために、国際的に通用する新たな学問領域を踏まえた学際的教育を実施する。	（医学研究科）博士課程にて研究進捗状況の評価として実施される３年次ポスターセッションでは、ポスター・発表ともに英語で実施し、学位論文は、査読のある国際的な学術誌に投稿・掲載される独創的研究に基づく著作（原著論文）としている。 （スポーツ健康科学研究科）博士前期課程において「スポーツ国際文化論」「国際交流プラクティカム」「スポーツ健康科学英語特別講義」「スポートロジー実践英語」等の科目を置き、国際性を養うとともに、英語力や研究成果の海外向け発信力の強化を目指した学際的教育を実施している。 （医療看護学研究科）国際保健論、グローバルメディカルコミュニケーション、国際コミュニケーション等の科目を配置し、国際性を涵養する学際的教育を実施している。 （保健医療学研究科）専門基礎科目として「理学療法英語特論」「診療放射線英語特論」を配置し、英語でのプレゼンテーションや論文作成に繋がる教育を実施している。
	11）教育目標の特性に応じ、学位取得状況及び修了後の進路等の定量的・定性的指標において高い水準を維持する。	（医学研究科）早期修了含む、標準修業年限内での修了率（ストレート修了率）は、令和６年３月修了者：博士課程 85.2%、修士課程 96.9%、令和５年３月修了者：博士課程 82.7%、修士課程 98.7%、令和４年３月修了者：博士課程 88.2%、修士課程 95.3%であり、高い水準を維持している。博士課程においては修了者の学位論文が査読のある学術雑誌に掲載受理されているかどうかを定期的に確認している。令和 2～5 年度の博士課程学位取得者のうち 99.5%が英文論文を執筆しており、掲載受理された学術雑誌のＩＦ平均は 4.361 となる。 （スポーツ健康科学研究科）学位取得状況及び修了後の進路等の定量的・定性的指標による評価を実施した。令和５年度は、博士前期課程 66 名、博士後期課程 11 名が学位を取得した。 （医療看護学研究科）修了時及び修了後の調査を行い、定量的・定性的指標による評価を行っている。令和５年度の専門看護師（ＣＮＳ）認定試験においては令和４年度ＣＮＳコース修了者５名中４名（累計 79 名）が合格した。
○教育の成果・効果の検証	○教育の成果・効果の検証に関する計画	○教育の成果・効果の検証に関する実施状況

中期目標	中期計画	当期の実施状況
4）教育課程の質保証の観点から多様な教育の成果・効果の検証を行う。	12）学生の理解度と自律的学習能力の向上という観点から、全学的な体制のもとで教育の達成状況を検証・評価する適切なシステムを構築する。	（医）学生は「カリキュラムマップ・コンピテンシー達成レベル表」を用いて、自身が受講した授業科目のコンピテンシー達成度を自己評価している。この「学生によるカリキュラム評価」の集計結果を、科目責任者が分析し、改善案等をカリキュラム評価委員会に報告している。同委員会では、参加した学生からの意見も参考とし、教育の達成状況を検証・評価している。なお、カリキュラム評価委員会からの提言は、カリキュラム委員会にフィードバックされる。 （スポーツ健康）学修成果の評価に関する新たな施策として、DPおよび、企業等が大学生に期待する能力を含む社会ニーズを反映させたコンピテンシーを定め、学生による達成度の自己評価を行う仕組みを整え、実施した。結果はカリキュラム委員会において報告され、学生の要望や要改善点等の確認・検討を行なっている。 （医療看護）学修成果の評価について、その目的や達成すべき質的水準及び具体的な評価の実施方法等について、アセスメント・ポリシーを定め、適切に評価を実施している。 （保健看護）アセスメント・プランを定めて適切に評価を実施している。一例として新学期に外部テストを用いた基礎学力テストを全学年に実施し、学生の理解度を測り各学年における学習内容の達成状況を検証・評価し指導に活用している。 （国際教養）ＤＰに対応するコンピテンシーの検証として在学生による自己評価を実施し、カリキュラム評価委員会で集計結果を検証した。さらに、カリキュラム評価委員会ではカリキュラム改善のためのアンケート及びインタビュー調査を１年生、ＳＡ学生対象に実施した。これらカリキュラム評価委員会での検証結果を教授会で報告し全教員で共有する流れを構築した。 （保健医療）カリキュラム評価委員会において、学生及び教員を対象としたカリキュラム評価アンケートをそれぞれ実施し、教育課程についての検証を行っている。 （医療科学）カリキュラム評価委員会において、学生及び教員を対象としたカリキュラム評価アンケートをそれぞれ実施し、教育課程についての検証を行っている。また、コンピテンシー達成レベル調査や学生合同カリキュラム委員会における学生からの意見を取り入れ、カリキュラムの充実を図っている。 （健康データサイエンス）カリキュラム評価委員会において、学生及び教員を対象としたカリキュラム評価アンケートをそれぞれ実施し、教育課程についての検証を行う予定である。また、コンピテンシー達成レベル調査や、学生合同カリキュラム委員

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	13）ＰＤＣＡサイクルに基づく教育の質向上を図るため、内部質保証体制を整備し、授業アンケート、学生の意見や学修状況、学修成果の状況、卒業後の状況に関するデータを把握し、恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行う。	会の開催も予定している。 （医）カリキュラム評価委員会にて、学生によるカリキュラム評価の結果や参加学生の意見を参考として、教育の達成状況を検証・評価し、提言事項として取り纏め、カリキュラム委員会に対してフィードバックしている。カリキュラム委員会では、提言事項の改善に向けた検討を行うことで、ＰＤＣＡサイクルを回している。 （スポーツ健康）毎授業において授業評価を行っているほか、学生生活実態調査等を行い、教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。また、ＤＰに基づいて制定したコンピテンシーの達成度調査を実施している。 （医療看護）毎授業において授業評価を行っているほか、学生生活実態調査、各種委員会に学生代表者が参加して意見聴取、コンピテンシーの到達度評価、卒業後アンケート調査等を行い、教員へ結果をフィードバックして恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。 （保健看護）毎授業における授業評価、学生生活実態調査、学生への意見聴取、コンピテンシーの到達度評価等を行い、恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。卒業生の就職先からの外部評価を取り入れている。 （国際教養）授業評価、学生生活実態調査、卒業時アンケート等を行い、その結果を関係委員会へフィードバックし、恒常的に教育改革の検証及び改善を行っている。 （保健医療）毎授業において授業評価アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックを行っている。授業評価アンケート結果は教務委員会で確認され、授業担当教員の指導のために活用している。 （医療科学）毎授業において授業評価アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックを行っている。同アンケートの結果は教務委員会で確認され、授業担当教員の指導のために活用している。更に授業科目終了時のアンケートも実施している。学生合同カリキュラム委員会における学生からの意見やコンピテンシー達成調査により、教育改革を進めている。 （健康データサイエンス）毎授業において授業評価アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックを行っている。同アンケートの結果は教務委員会で確認され、授業担当教員の指導のために活用している。更に授業科目終了時のアンケートも実施している。学生合同カリキュラム委員会における学生からの意

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		見やコンピテンシー達成調査を行うことを計画している。
○成績評価に関する基本方針 ５）教育課程に基づく教育の成果について厳正・適正な成績評価を行う。	○成績評価に関する計画 14）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）によるアセスメント・ポリシーに基づき、教育課程に係る教育成果について成績評価基準を定め、到達度に力点を置いた厳格な成績評価を実施する。	○成績評価に関する実施状況 （医）各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示している。 （スポーツ健康）成績評価基準を履修要項に明記しているほか、各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示し、厳格な成績評価を実施している。 （医療看護）教育課程全体の成績評価基準を履修要項に明記しているほか、各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示し、厳格な成績評価を実施している。 （保健看護）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）によるアセスメント・プランに基づき、到達度に力点を置いた厳格な成績評価を実施している。 （国際教養）成績評価基準を「履修の手引き」に明記し、各授業科目のシラバスに学修の到達目標、成績評価方法・成績評価基準、ディプロマ・ポリシーとの関連を示し、厳格な成績評価を実施している。 （保健医療）アセスメント・ポリシーに基づき、前期・後期それぞれで厳格な成績評価を行っている。 （医療科学）各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準、ディプロマ・ポリシーとの関連を示している。 （健康データサイエンス）各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準、ディプロマ・ポリシーとの関連を示している。
	15）筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価する。	（医）講義と実習から構成される授業科目については、筆記試験の評価に実習等の評価も加味した多面的・総合的な評価を行っている。 （スポーツ健康）小テストや課題レポート等による成績の他に実技試験等の成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。 （医療看護）筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。 （保健看護）筆記試験の他に実習・演習科目を中心にルーブリックを用いて客観的指標に基づいて評価を行っている。 （国際教養）筆記試験による成績の他、演習科目でのプレゼンテーション、ファシリテーションの実践、外国語科目でのコミュ

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		ニケーション能力、ゼミナールでの専門性の追及・研究及びその成果物（卒業論文）等を組み合わせ、多面的、総合的な評価を行っている。 （保健医療）実習・演習科目においては、ルーブリック等を用いて客観的指標に基づいて評価を行い、筆記試験だけでは評価が難しい技術・意欲等を多面的、総合的に評価している。 （医療科学）筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。 （健康データサイエンス）筆記試験による成績の他に演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。
	16）ＧＰＡによる成績に基づき学生の学習意欲の向上を図るとともに、適切な個別指導を行い、国際通用性の確保を図る。	（医）各学年の進級判定基準にて、ＧＰＡも加味して総合的に進級・卒業の判定を行うことを教育要項に明記している。また、要指導対象学生を選出する際の参考としてもＧＰＡを活用している。ＧＰＡ値を進級・卒業要件に加えた新たな判定基準を令和５年度に策定し、令和６年度から運用開始するべく、令和６年の新年度オリエンテーションにて学生に周知した。 （スポーツ健康）ＧＰＡ1.0 未満又は修得単位数 16 単位未満の年度が通算２回となった場合は修学指導の対象とし、以後改善が認められない場合は退学勧告を行なうこととしている。また、前年度ＧＰＡの数値に応じて、年間履修登録単位数の上限を引き下げることとしている（2.0 以上＝49 単位、1.5 以上 2.0 未満＝46 単位、1.5 未満 44 単位）。その他、卒業判定、学修支援対象者検討及び海外留学希望者選考等においてもＧＰＡを活用している。 （医療看護）ＧＰＡを導入しており、進級判定、卒業認定、助産師課程選抜試験等における総合判定データの一つとして利用している。なお、今後ＧＰＡを進級・卒業判定における具体的な判定基準として用いるべく、令和５年度に審議基準及び退学勧告基準を定めた。当該基準については、令和６年度の進級・卒業判定において運用開始を予定している。その他、アドバイザー教員による個別指導にも利用している。 （保健看護）ＧＰＡを導入しており、学習指導、奨学生の推薦、海外研修参加に対する判断材料として活用している。また、退学勧告、進級判定、卒業判定に活用する際の基準数値を定めた。 （国際教養）ＧＰＡを進級・卒業判定時の参考とし、成績不良学

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		生の特別アドバイジングケアシステムにおける対象者判定の基準として利用している。また、留学希望者の留学可否審議の際の指標として利用している。次年度から退学勧告、進級判定、卒業判定へ活用するための判定基準数値の検討を行った。 （保健医療）ＧＰＡを進級判定時の基準の一つとして利用している。また成績不良学生の学生指導の基準としても利用している。より有効活用するため、年度末のＧＰＡが 1.0 以上を進級・卒業判定の基準、1.0 未満を退学勧告の基準、2.0 未満を成績不良者として担当教員による指導実施基準とし、令和 6 年度より運用することを決定した。 （医療科学）ＧＰＡを進級判定、成績不良学生の指導及び退学勧告の基準の一つとして利用している。また研究室配属や臨地・臨床実習の派遣先の決定の際にも活用している。 （健康データサイエンス）ＧＰＡを成績不良学生の学生指導の基準として利用している。上位者には表彰を行い、学生の学習意欲向上に取り組んだ（2 年生 3 名）。研究室の配属やインターンシップ派遣先の決定の際にも活用する計画である。
（2）教育の実施体制等に関する目標 ６）世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、教育組織及び実施体制を整備・強化するとともに、社会的要請等を考慮して適切な入学定員を設定し、国際標準化を視野に入れた教育体制・教育環境を整備充実させる。 ７）学士課程の拡充を図るために新学部開設の構想について検討を進め実現を図る。	**（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための計画** 17）幅広い教養教育から専門教育に繋がる充実した一貫性のある学士課程教育を実施するために、大学協議会をコアとして全学的な体制の整備・充実を図る。 18）教育組織の再編・強化を図るとともに、必要に応じて入学定員を見直す。学部においては、スポーツ健康科学部の更なる入学定員増を実施（600 名へ増員）し、学科再編成等を行う。医療看護学部・保健看護学部についても入学定員増に取り組む。また大学院においては、医学研究科修士課程・博士課程、医療看護学研究科博士前期課程・後期課程の入学定員増に取り組む。医学研究科修士課程に社会の要請に応じたリカレントコースの開設を目指す。保健医療学部を基礎とする新研究科の開設を検討する。	**（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための実施状況** （大学）大学協議会では、当年度に次年度教育課程の編成に関する全学的な方針を策定し、次年度にその方針に基づいた各学部・研究科の取組内容を検証し、教育課程の充実を図っている。 （法人）令和 7(2025)年 4 月大学院データサイエンス研究科開設に向けて令和 6(2024)年 3 月文部科学省に学部設置の認可申請書及び寄附行為変更認可申請書を提出した。 （医学研究科）令和 3 年 4 月に医学研究科医科学専攻（修士課程）の入学定員増（40 名→60 名）を実施して以降、令和 5 年度 89 名、令和 4 年度 98 名、令和 3 年度 77 名が入学し、入学定員を大きく充足している。令和 5 年度（10/1 時点）の修士課程大学院生に占める社会人の割合は約 35%（66 名/187 名）であり、リカレント教育として役割を果たしている。 （医療看護学研究科）令和 4 年度より留学生を対象としたグローバルナーシングコース（博士前期課程）・グローバルナーシングリーダシップコース（博士後期課程）を開設し、大学院への進学を希望する留学生に広く門戸を開いた。入学定員はグローバルナーシングコースが 4 名、グローバルナーシングリーダーシップコースが 2 名であり、令和 5 年度には当該コースを含め

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		た医療看護学研究科の収容定員は 92 名となった。 （スポーツ健康）スポーツ健康科学部の定員増（600 名に増員）と学科再編を実施し、新たなカリキュラムが運営されている。 （医療看護）医療看護学部では、令和 4 年度より入学定員を 220 名に増員し、令和 5 年度には収容定員が 840 名となった。 （保健看護）令和 6(2024)年度から入学定員を 130 名から 160 名に増員するため認可申請を行い、認可を受けた。 （国際教養）令和 6(2024)年 4 月大学院国際教養学研究科修士課程開設に向け、令和 5(2023)年 3 月文部科学省に設置認可申請書を提出し、令和 5(2023)年 9 月 4 日付で認可を受けた。入学定員 5 名に対し、受験者 11 名・合格者 9 名となった。 （保健医療）令和 5(2023)年 4 月に大学院保健医療学研究科修士課程を開設し、第 1 期生として理学療法学専攻に 19 名、診療放射線学専攻に 9 名が入学した。
	19）令和 4 年度（2022 年度）に浦安市日の出地区に医療科学部（仮称）を開設し、医学・医療の基本的素養を基に高度で専門的な知識を身につけ、確かな技術を修得し、高い実践力を備えた臨床検査技師及び臨床工学技士の育成を目指す。	（法人）令和 3(2021)年 3 月文部科学省に定員増に伴う学則改正認可申請書を提出し、6 月 29 日付で収容定員の増加に係る学則変更認可を受け、令和 4 年 4 月に開設した。
	20）令和 5 年度（2023 年度）を目標として、ＡＩに関する知識とスキルを身につけ、医療・スポーツをはじめ各種の場面で蓄積されたビッグデータを解析・分析し、課題解決策や新たな価値を創造できる人材の養成を目指して新学部開設の検討を進める。	（法人）令和 5(2023)年 4 月健康データサイエンス学部開設に向けて、令和 4(2022)年 3 月文部科学省に学部設置の認可申請書及び寄附行為変更認可申請書を提出し、同年 8 月に設置が認可され、令和 5 年 4 月に開設した。
○教育環境の整備 ８）本学の理念・目的の実現のため教育設備を充実させるとともに、教育効果の検証を行い、より教育効果の高いカリキュラムを構築する。	○教育環境の整備に関する計画 21）学生にとって学びやすい環境整備を図り、多様なメディアを活用した教育体制の充実、シミュレーション教育の充実を推進するとともに、カリキュラムの教育効果を検証し、教育効果の高いカリキュラムの構築を図る。また、グローバル化に通用するＩＣＴサービス等の機能強化・拡充を図り、ＩＣＴを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援及び教学システムを充実させ、教育環境の強化を図る。	○教育環境の整備に関する実施状況 （医）COVID-19 の 5 類移行により対面授業が復活したが、オンデマンド動画配信を既にカリキュラムに組み込んで運用している授業（臨床医学 Group 講義等）では、アクティブラーニングを組み合わせて更なる充実化を図っている。カリキュラム委員会に参加する学生からは、復習のために対面授業の録画をアーカイブ化して公開してほしいとの要望も寄せられており、一部の授業科目において期間を定めてアーカイブ動画の配信を開始した。 （スポーツ健康）ＩＣＴを活用したアクティブラーニングの実施に向け、2 号館 11 番 12 番教室のＡＶ・ＩＣＴ機器を全面的に更新し 3 号館と共通の仕様として教育環境の強化を図った。 （医療看護）シミュレーション教育の充実のために、大学院シミ

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		ュレーション教育研究センターを設置し、教育環境の強化を図った。また、学生専用のネット回線を新設し通信環境の改善を行ったほか、ＢＹＯＤ推進に伴う充電スポットの整備を検討しつつ、ＰＣ対応モバイルバッテリーの貸出を開始した。学生専用サイトをMicrosoft SharePointにて作成し、時間割や講義動画へのリンクをはじめ、学生生活に必要な情報をすべて集約して掲載するなど、学びやすい環境整備に取り組んでいる。 （保健看護）学生にとって学びやすい環境整備を図り、多様なメディアを活用した教育体制の充実、シミュレーション教育の充実を推進し、カリキュラムの教育効果を検証するためのアンケート調査を実施した。ＩＣＴを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援を行い、クラウド型学習支援システムmanabaを活用することによりリテラシー向上を視野に入れ教育環境の強化を図っている。 （国際教養）授業は全面的に対面授業となったが一部オンデマンド動画配信による授業形態も導入している。ＩＣＴを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援を行い、教学システムJuntendo PassportやGoogle Classroomを用いて動画配信、授業資料配信を行うなど学生にとって学びやすい環境の整備を図っている。 （保健医療）Juntendo PassportやGoogle Classroom等を用いて資料配信や授業動画の公開を行う等、学生の自修支援を行っている。Juntendo Passportのアップデートも実施され、ＬＭＳ機能の強化や復習用の授業動画配信に取り組んでいる。 （医療科学）Juntendo PassportやGoogle Classroomを用いて資料配信や授業動画の公開を行い、学生にとって学びやすい環境整備に取り組んでいる。 （健康データサイエンス）Juntendo PassportやGoogle Classroomを用いて資料配信や授業動画の公開を行い、学生にとって学びやすい環境整備に取り組んでいる。
	22）電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集、順天堂大学学術情報リポジトリのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、学術メディアセンターにおける学術・情報資源を充実させる。	（大学）電子ジャーナルやデータベースの契約は、講座・教員の購読希望、学術的な価値、購読費用を考慮したうえで選定して、各キャンパス学術メディアセンター運営委員会の審議を経て契約を行った。また利用が多いジャーナルについて、バックファイル契約の追加により閲覧範囲を拡大した。一方、本学のＩＰアドレスがキャンパス・附属病院ごとに再編されたことを受け、一部のキャンパスにおいて、関連が薄い学問分野の電子ジャーナルやデータベースの契約範囲を狭めて、経費縮減を図

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		った。令和４年（2022 年）４月に新設された浦安・日の出キャンパスは、新たに電子書籍を契約するとともに、利用が見込まれる電子ジャーナル・電子書籍、データベースを契約範囲に含めた。 （本郷・お茶の水Ｃ）学術情報提供として、シラバスに掲載される教科書や参考図書を中心に電子書籍の契約を進めた。 令和２(2020)年８月に「順天堂大学オープンアクセス方針」を制定し、順天堂大学学術情報リポジトリのコンテンツとして、研究論文を掲載して学術情報の発信を行っている。学術メディアセンター運営委員会において、学術情報リポジトリのあり方とともに、学内刊行誌、研究データ、貴重資料画像等の搭載を検討している。学内刊行誌は、順天堂医学会の『Juntendo Medical Journal』とスポーツ健康科学部の紀要『順天堂大学スポーツ健康科学研究』の学術文献を搭載している。 （保健看護）電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集を行った。
○教育の質の改善のためのシステム ９）世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、内部質保証体制を整備し、教育活動の点検・評価を行い、改善するシステムを構築する。	○教育の質の改善のためのシステムに関する計画 23）各学部のカリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会の機能を充実させ、外部評価制度の導入を検討する。	○教育の質の改善のためのシステムに関する実施状況 （医）カリキュラム委員会は、８月を除く毎月１回定例開催している。カリキュラム委員会には、学生の代表者が年３回、外部評価委員が年１回参加している。カリキュラム評価委員会は年度に２回開催し、継続的にカリキュラムの点検を行っている。 （スポーツ健康）令和５年度はカリキュラム委員会を４回、カリキュラム評価委員会を２回開催し、教育内容の充実に向けた検討を行った。 （医療看護）定例でカリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を開催した。在学生、卒業生、教員を対象にした調査からカリキュラムの評価を行っている。 （保健看護）カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会において継続してカリキュラムの検証を行っている。在学生、卒業生に対する調査、卒業生の就職先からの外部評価を取り入れている。 （国際教養）カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を開催し、継続的にカリキュラムの点検を行っている。非常勤教員、在学生、卒業生の意見を聴取する機会を設け、カリキュラム改訂検討に活かしている。 （保健医療）カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を毎月開催し、教育内容の充実に向けて検討している。 （医療科学）カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		定期的に開催し、教育内容の充実に向けて検討している。両委員会には、学生も参加し、カリキュラム改善の意見を述べている。 （健康データサイエンス）カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を定期的に開催し、教育内容の充実に向けて検討している。両委員会には、学生も参加し、カリキュラム改善の意見を述べている。
	24）卒業生に対し卒後の長期フォローアップを実施し、その結果をカリキュラム改革の検討の仕組みに盛り込む方策を検討する。	（医）卒業生に対してカリキュラムアンケートを実施し、結果をカリキュラム委員会にフィードバックし、改善の検討を行っている。また、コンピテンシーの達成度を自己評価する「学修成果に係る自己評価アンケート」も実施している。 （スポーツ健康）卒業生アンケートの実施の検討を進め、その結果をカリキュラム改善に生かすことを検討している。 （医療看護）卒業生へのアンケートを実施しており、その結果に基づきカリキュラム評価委員会で検討しているほか、卒業生の意見を在学生に開示した。 （保健看護）卒業生に対し卒後の長期フォローアップを実施し、その結果をカリキュラム改革の検討の仕組みに盛り込むため、キャリア支援ワーキンググループの活動を強化した。 （国際教養）就職・キャリア支援部門と教職課程部門で、卒後の就労状況の把握とフォロー体制の充実を図るための一環として、ＯＢＯＧと在学生交流会を開催した。在学生へのアドバイスと共に、学部カリキュラムで学んだことが卒後の今どのように活かされているかの意見聴取を行い、カリキュラム改訂の検討材料となった。 （保健医療）卒業生アンケートの実施の検討を進め、その結果をカリキュラム改善に生かすことを検討している。
10）教員の教育能力の向上及び教育の質の改善と向上を図るためファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）を継続的に実施し、教育活動を点検・評価するとともに教育改善に取り組む。	25）国際通用性を備えた教育活動を担う教員の教育力向上を目指し、学生による授業評価等を踏まえ、ＦＤを継続的に取り組むとともに、各学部ファカルティ・ディベロップメント推進委員会において、ＦＤの分析とＦＤの在り方を検討し、ＰＤＣＡサイクルを更に機能させる。	（医）ＦＤ（医学教育・卒後教育ワークショップ）に学部学生、大学院生、初期臨床研修医を参画させ、学生等の意見をカリキュラム改革に反映させる取組を実施している。ＦＤの分析とＦＤの在り方の検討については、ＦＤ推進委員会で検討している。令和５年度は４回（4、6、7、12 月）の委員会を開催し、ＦＤの年間実施計画、各ＦＤの実施概要、各ＦＤの実施状況報告、次年度の実施計画の策定等を検討した、令和５年度に実施したＦＤは「医学教育ミニワークショップ（4 月：23 名参加）」「卒業試験問題作成のためのＦＤ（6 月：50 名参加）」「医学教育・卒後教育ワークショップ（7 月：174 名参加）」

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		「医学教育教員ＦＤ：順天堂大学医学教育のこれから～JACME2巡目審査を終えて～（9 月：192 名参加）」「教員の教育力向上のためのＦＤ（11 月：オンデマンド配信 879 名参加）」である。 （スポーツ健康）10/26「授業科目「卒業研究」の進め方と大学院の早期修了について」、2/29「ハラスメント防止」の 2 回のＦＤ研修会を行なった他、随時開催形式のミニＦＤを 3 回実施した（12/22「就任３年未満の教員を対象とした情報交換会」、2/27「聴覚障がい学生への支援について」、3/5「聴覚に障がいがある人への運動指導について」）。参加者アンケート結果等に基づき、ＦＤ推進委員会において次回以降の内容やＦＤの在り方について検討を行ない、質の向上を図っている。令和 5 年度においては計 6 回の委員会を開催した（①5/16：議題「2023 年度ＦＤワークショップの企画・運営について」委員 10 名出席、②6/7：議題「2023 年度ＦＤワークショップテーマについて」委員 10 名出席、③10/17：議題「2023 年度第 1 回ＦＤワークショップについて」委員 10 名出席、④「2023 年度ミニＦＤワークショップについて」委員 10 名出席、11/24：議題「2023 年度第 1 回ＦＤワークショップの振り返り」「2023 年度ミニＦＤワークショップについて」委員 9 名出席、⑤1/16「2023 年度ミニＦＤワークショップの振り返り」「2023 年度第２回ＦＤワークショップについて」委員 10 名出席、⑥2/19：議題「2023 年度第２回ＦＤワークショップについて」委員 10 名出席） （医療看護）ＦＤ委員会が主催となって毎年ＦＤ講演会を開催しており、講演会の内容に基づいたグループワークを行うことで教員間の体験・知見を共有する場を設けている。令和 5 年度は 7 月に「多職種連携教育（IPE）を理解する・始める」と題して学部ＦＤを、11 月に「医学研究倫理の考え方と最新の倫理指針の解釈」と題して大学院ＦＤを開催し、それぞれ全専任教員が参加した。参加者は外部関係者を含め、学部ＦＤ97 名、大学院ＦＤ71 名となった。なお、講演会の実施に当たっては、過年度の参加者アンケートを基にＦＤ委員会において検証し、質の向上を図っている。 （保健看護）学生による授業評価に基づくリフレクションを行っている。ＦＤ委員会を中心として定期的に情報共有しＰＤＣＡサイクルを構築している。令和 5 年度ＦＤ研修会は、8 月 4 日に実施し、「データサイエンス：ＡＩ時代の内科診療」をテーマとして全教職員（教員 36 名、職員 10 名、TA 1 名）、他学部

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		教員２名、学生 15 名が参加した。年度末（3 月 8 日）にはＦＤセミナー報告会を開催し、研修会等における成果を共有している。 （国際教養）学生による授業評価に基づくリフレクションを行っている。毎年度、学部運営、学生教育の在り方、教育課程プログラムをディスカッションするＦＤを複数回開催し、専任教員の他、非常勤教員、在学生、卒業生、事務職員が参加し、学部運営に関する意見交換、情報の共有を図っている。 ＦＤ推進委員会は 10 名の構成員で毎月開催し、夏季ＦＤ研修会のテーマ、プログラムの検討や、カリキュラム以外の学部のトピックスを関連する委員会と共催でミニＦＤ（ＳＤ）の形で開催した。令和５年度の夏季ＦＤ研修会は、カリキュラム改訂と広報の２本立てで『これからの学生募集活動～より良い方向性を目指して～』『学生のモチベーションアップを図る教育改革（1・2 年次の低学年教育を中心として）』をテーマに７月に開催し、教員 35 名、職員 11 名が参加した。この他、5 月には高校訪問実施にあたっての共通理解・共通認識を図るためのＦＤ（ＳＤ）を開催し全専任教員が参加、12 月には次年度からのカリキュラム改訂に向けて『カリキュラム改訂～「グローバル市民」育成カリキュラムの再構築』を開催し、専任教員の他、兼担教員７名、語学嘱託教員３名、非常勤講師 13 名、事務職員９名が参加して情報共有を図り、3 月には新カリキュラムの科目で全専任教員が関わる『リベラルアーツ演習』開講にあたっての共通理解・共通認識を図るＦＤを開催した。 （保健医療）毎年開催する教員ＦＤ研修会に専任教員全員が参加し、教員の資質向上のための取組について検討を行っている。2023 年度は 5 月 27 日（土）に「国家試験対策に関して」および「研究力向上について①国際共同研究の予算、②産学連携への道筋、③民間助成の探し方」をテーマに、クロス・ウェーブ府中で対面形式で開催し、専任教員 40 名全員が参加した。また、ミニＦＤとして 10 月 11 日（水）に対面形式で「学生のメンタルサポートについて（本郷・お茶の水キャンパス学生相談室）」、12 月 13 日（水）にオンライン形式で「ＳＯＧＩに関するＦＤ研修会（武田裕子）」を開催した。 （医療科学）学生による授業評価に基づくリフレクションを行っている。定期的に開催する教員ＦＤ・ＳＤ研修会には、専任教職員全員が参加し、教職員の資質向上のために取り組んでいる。教育力向上のためのＦＤは、「J-Pass の使用方法」をテーマに実施した（教員全員参加、28 名）。研究力向上と共同研究

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		推進のためのＦＤとして、全教員による研究発表を６回開催した（教員全員参加、28 名）。ＦＤ・ＳＤセミナーは、「(高大接続に関連して)高等学校における STEAM 教育や探求型授業の実践」、「SOGI(性的志向と性自認）」をテーマとして開催した（教員全員参加、28 名、事務職員全員参加 14 名）。ＦＤ・ＳＤ委員会で研修内容について検討を行っている。 （健康データサイエンス）定期的に開催する教員ＦＤ・ＳＤ研修会には、専任教職員全員が参加し、教職員の資質向上のために取り組んでいる。教育力向上のためのＦＤは、「J-Pass の使用方法」をテーマに実施した（教員全員参加、14 名）。ＦＤ・ＳＤセミナーは、「(高大接続に関連して)高等学校における STEAM 教育や探求型授業の実践」、「SOGI(性的志向と性自認）」をテーマとして開催した（教員全員参加、14 名、事務職員全員参加 14 名）。ＦＤ・ＳＤ委員会で研修内容について検討を行っている。
	26）教育の状況及び教育の成果に関する定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等を改善する。	（医）定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価アンケート、学生生活実態調査、卒業生に対するコンピテンシーの到達度の自己評価、カリキュラムアンケート調査等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （スポーツ健康）定期試験、授業評価アンケート、学生生活実態調査、コンピテンシーの到達度評価等を行っており、それらの分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （医療看護）定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価、学生生活実態調査、学生への意見聴取、コンピテンシーの到達度評価、卒業後アンケート調査等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （保健看護）定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価アンケート、学生生活実態調査、在校生・卒業生に対するコンピテンシーの到達度の自己評価アンケート等を行っており、それらの分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （国際教養）定期試験、授業評価、学生生活実態調査、卒業時アンケート、英語外部試験、コンピテンシー到達度セルフチェック等により、これらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （保健医療）定期試験、実習評価、授業評価、学生生活実態調

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		査、コンピテンシーの到達度評価等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （医療科学）定期試験、授業評価、コンピテンシー達成レベル調査、カリキュラム評価アンケート、学生生活実態調査を行っており、これらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。 （健康データサイエンス）定期試験、授業評価、カリキュラム評価アンケート、学生生活実態調査を行っており、これらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。
（3）学生への支援に関する目標 ○学生の学習支援 11）世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、学生のニーズに応じた学習支援や生活支援のための相談・助言等の体制を拡充する。	**（3）学生への支援に関する目標を達成するための計画** ○学生の学習支援に関する計画 27）学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるために、環境作りや支援体制を整備・充実する。	**（3）学生への支援に関する目標を達成するための実施状況** ○学生の学習支援に関する実施状況 （大学）新型コロナウイルス感染症拡大に伴う次の支援措置を継続した。①学費延納措置、②各種修学支援制度や奨学金の申請手続きの支援、③オンライン授業受講のための通信環境のサポートとして通信機器の貸与。 （医）教務委員会、カリキュラム委員会、学生部委員会が連携して対応している。 （スポーツ健康）学習支援は教務委員会で、課外活動は学生部委員会、スポーツ推進支援センター運営委員会が中心となり、環境整備や支援について検討を行っている。 （医療看護）教務委員会、学生部委員会で取組んでいる。課外活動が円滑に行われるよう学生部委員会が中心となり、学生との連絡会議の場を設け学生自治行事のサポートを行っている。 （保健看護）教務委員会・学生部委員会を中心として学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるために、環境作りや支援体制を整備・充実を図っている。 （国際教養）教務委員会・学生部委員会を中心として学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるための環境作りや施設貸出等の支援体制の整備・充実を図っている。 （保健医療）学生部委員会を中心に学生生活全般の支援を行っている。 （医療科学）学生部委員会を中心に学生生活全般の支援を行っている。 （健康データサイエンス）学生部委員会を中心に学生生活全般の支援を行っている。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
12）学生のキャリア教育を充実させ、学生の多様なキャリアパスに応じた進路支援機能を強化することにより、学生の進路に係る不安の解消を図るとともに、多様な人材を社会の各方面に輩出する。	28）生涯を通じた持続的な自己開発力を自ら発揮できるように、修学年次に応じたキャリア形成支援を実施し、インターンシップや学生の職業意識啓発のためのセミナー等の内容の充実を図る。	（医）修学年次に応じて実施される一般教育（1 年次）、基礎医学（1～3 年次）、臨床医学（3～4 年次）、臨床実習（4～6 年次）のカリキュラムを通じて、段階的なキャリア形成支援を実施している。6 年次には将来の臨床研修先や研究先となる機関を決定する上で重要となる学生インターンシップ実習を実施している。基礎研究医養成プログラム登録学生が一定の要件（研究実績）を満たした場合、学生インターンシップ実習において臨床実習ではなく、基礎系講座・研究室、研究センターでの研究実習や海外施設への研究留学も可能とするなど、多様なキャリア形成支援を行っている。 （スポーツ健康）2 年次の必修科目である「キャリアデザイン」、正課外の「自己分析講座」を中心に早期から自身の将来について考える機会を設け、幅広い職業観を全員が形成できるよう働きかけている。さらに、正課外において学生の職業意識啓発のためのセミナー等を年間延べ 130 日開催した。 （医療看護）3 年次より外部講師を招聘しての就活関連講座の実施や附属 6 病院の内部生向け就職説明会を開催するなどして早期からキャリアプランを想定して実習等に取り組めるよう支援を行っている。 （保健看護）令和 4 年度からキャリア支援ワーキンググループを立ち上げ、在学生の就職支援、卒業生の再就職や大学院進学等の支援を行っている。卒業生の再就職や大学院進学等の支援を行うため、令和 5 年 10 月にキャリア支援ワーキンググループによる第 1 回ホームカミングデーを開催した。 （国際教養）就職支援面談は、対面以外にオンラインツールを積極的に活用している。コロナ以降の企業側の採用方針の転換、採用活動の変化への対応として令和 5 年度は計 56 回の就職セミナーと延べ 1,526 枠の個別面談を実施した。多職種・業界へ就職する本学部の特性を踏まえ、学生が自ら学びをデザインし、将来に備えて自律性を高めることをテーマにした検討を継続しており、各授業科目とコンピテンシーとの対応をシラバスに載せている。 （保健医療）必修科目であるゼミナールにおいて、多様なキャリアを知り早期から自身の将来を考える機会を与えている。また就職活動支援のための取組みとして、外部業者による就職支援講座を実施し、就職活動等に必要な情報提供を行っている。 （医療科学）必修科目であるキャリアデザインゼミナールや企業説明会により、多様なキャリアを知り早期から自身の将来を考える機会を与えている。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		（健康データサイエンス）必修科目であるキャリアデザイン論や企業説明会により、多様なキャリアを知り早期から自身の将来を考える機会を与えている。
○学生の生活支援 13）学生が充実した学生生活を送るための生活支援・心のケア、障がい学生支援を充実させる。	○学生の生活支援に関する計画 29）利用者である学生の視点に立って、学生生活・健康相談体制、就職支援体制、ボランティア活動支援体制等の充実・強化を図る。	○学生の生活支援に関する実施状況 （医）学生部委員会にて学生生活支援、安全衛生管理室にて健康相談、学生相談室ではプライベートの悩みについて支援を行っている。また、学生のメンタルケアを担当する教員（医学教育研究室、精神医学講座）が新たに校医に就任した。 （スポーツ健康）さくらキャンパス学生課、健康安全推進センター、学生相談室、就職課が中心となり、学生への相談体制や就職支援体制を構築し、学生の支援を行っている。 （医療看護）学生部委員会において、学生生活・健康相談、就職支援を行っている。外部ボランティアについては社会連携推進室にて、既存のボランティアサークルに対しては学生部委員会で対応している。 （保健看護）学生部委員会を中心に学生の生活支援を進めている。安全衛生管理室にて心の相談を含めた健康相談、支援を行っている。学外ボランティア活動については社会連携推進室にて対応し、学生による活動報告を学内に掲示するなど学生活動の支援を行っている。 （国際教養）学生部、健康安全推進センター、就職支援室、担任・ゼミナール担当教員が連携して学生の生活支援を進めている。心のケアが必要な学生に対しては、学生相談室カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）が学生の相談にあたっている。 （保健医療）学生部委員会を中心に、学生からの相談に応じている。本郷・お茶の水キャンパスの相談窓口として、学生相談室の開室状況等も適宜アナウンスしている。 （医療科学）学生部委員会にて学生生活支援、健康安全推進センターにて健康相談・よろず相談、学生相談室にてプライベートな悩みについての支援を行っている。 （健康データサイエンス）学生部委員会にて学生生活支援、健康安全推進センターにて健康相談・よろず相談、学生相談室にてプライベートな悩みについての支援を行っている。
	30）障がいを持つ学生が必要とする支援ニーズを把握し、支援体制の拡充を図るとともに、性的少数者に配慮した環境の整備や女子学生のニーズに応じた支援体制の拡充を図る。	（医）障がいを持つ学生の在籍数は非常に少ないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援や配慮が必要な学生については学生部委員会で対応する。臨床実習中の学生については、臨床実習担当者会において対応を協議

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		している。 （スポーツ健康）学内に障がい者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。令和５年度は肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、精神障がいの学生を支援しているが、今後はさらに支援を充実させることから、学生部委員会から独立した「障がい学生支援ワーキンググループ」を発足し「障がいのある学生の支援に関する基本方針」に基づき、ニーズに応じた支援体制の充実を図っている。 聴覚障がい（ろう）の学生の入学に伴い、新たに「障がい学生支援委員会」を発足させ、各種支援体制の構築を進めている。今後の学修において生じる課題と、その対応により蓄積された知見を学内において共有していく。また、その他心身障がいを始め様々な支援ニーズを持つ学生の把握と、その対応についても検討を進めることとしている。 （医療看護）障がいを持つ学生の在籍数は少ないが、学内に多機能トイレやエレベーター、スロープ等を整備している。その他支援が必要な学生については学生部委員会で対応する。 （保健看護）障がいを持つ学生を支援するために合理的配慮申請書を作成し運用を開始した。学内に障害者用トイレやエレベーターを整備している。 （国際教養）令和２年度に入学した脳出血後後遺症による電動車椅子を使用している学生のニーズに応えるよう、本人、保護者、担任教員、事務室と連携を密にしている。対面授業日には、一時的に休憩できるスペースを確保している。履修科目担当教員に対しては、授業内での提出物、課題・レポート提出期限等の配慮を求めている。障がいを持つ学生を支援するために合理的配慮申請書を作成し運用している。性的少数者に配慮し、第３教育棟２階、第２教育棟１階多目的トイレにレインボーマークを貼付している。 （保健医療）障がいを持つ学生は在籍していないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。 （医療科学）学内に多目的トイレやエレベーター等を整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。 （健康データサイエンス）学内に多目的トイレやエレベーター等を整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
（4）入学者選抜に関する目標 14）アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、深い知識と高度な技術、幅広い教養と豊かな感性を兼備え、国際感覚に優れた教育者・職業人となるに相応しい人材を受け入れる。	**（4）入学者選抜に関する目標を達成するための計画** 31）アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への入学を希望する優秀な入学志願者の確保を目指し、従来の入試選抜方法に加え、国際バカロレア、TOEFL 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜する。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開し、効果的な入試戦略広報を行う。	**（4）入学者選抜に関する目標を達成するための実施状況** （大学）受験生への情報発信として、各学部でホームページの充実を図っている。一般選抜において共通化に取組み、医学部以外の学部で一般選抜を 2 回以上実施し、受験機会の拡充を図り、より多くの学生が受験できるようにした。 留学を希望する外国人や海外の高校を卒業予定の帰国生、国内の遠方の受験生などを対象にオンラインで試験を実施し、国内外からの優秀な学生の確保につとめている。 （医）国際性・多様性を重視した複数の入試選抜方法（国際バカロレア／ケンブリッジ・インターナショナル選抜、帰国生選抜、外国人選抜、研究医特別選抜 、英語外部試験スコアを用いた選抜方式）を実施している。面接試験においては、願書に記載した TOEFL 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験を証明する資料を持参させ、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、学部パンフレットの配布等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開している。 （スポーツ健康）アドミッション・ポリシーを踏まえて、国内外からの優秀な入学希望者の確保を目指し、外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を選抜している。 （医療看護）複数の入試選抜方法を採用しており、国際バカロレア、外国語検定試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を図るべく、各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等の多様な手段を用いて広報活動を実施している。 （保健看護）アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への入学を希望する優秀な入学志願者の確保を目指し、帰国生選抜入試では国際バカロレア、TOEFL 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開し、効果的な入試戦略広報を継続している。 （国際教養）多文化多言語共生社会の構築に貢献できるグローバル市民の育成を教育目標に掲げ、アドミッション・ポリシーで

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		求める学生像を示し、国際バカロレア選抜、海外帰国生選抜、外国人特別選抜の各選抜方式を設け、これらを複数回実施することにより、受験生の受験機会確保に繋がるよう努めている。総合型選抜、学校推薦型選抜においては外部試験利用選抜の方式を設け、主に英語、スペイン語、フランス語、中国語の検定スコアの提出と、同言語による面接試験を実施している。総合型選抜に活動実績型の方式を設け、スポーツや文化・芸術活動において顕著・特殊な活動実績や能力を有する人材を求める選抜を実施している。 （保健医療）アドミッション・ポリシーに基づき、多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、特別選抜（帰国生）を実施している。 （医療科学）アドミッション・ポリシーに基づき、多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、帰国生徒選抜を実施している。総合型選抜に「探究育成型」として、課題の設定と解決策の立案能力に秀でた受験生を評価する仕組みを導入した。受験者層の裾野拡大を図るため、地方入試も実施している。 （健康データサイエンス）アドミッション・ポリシーに基づき、多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、帰国生徒選抜を実施している。総合型選抜に「育成型・プログラミング力育成」として、プログラミング演習の内容を評価する仕組みを導入した。受験者層の裾野拡大を図るため、地方入試も実施している。 （薬学部）複数の入試選抜方法を実施しており、TOEFL、GTEC、IELTS 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力を持つ志の高い優秀な人材を選抜している。新設学部であることから、各種の入試説明会や、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、薬学部の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開している。
	32）アドミッションセンター（H28 設置）を中心に一般入試及び各学部の多様な選抜試験により入学した学生の入学後の修学状況や学業成績、大学院への進学状況等の追跡調査を実施するとともに、求める人物像に適った学生が入学しているか検証を行う。これを踏まえて本学における入試制度の改革等について検討し、改善を行う。	（大学）令和 2 年度に学部及び研究科に入試検証委員会を設置し、入試終了後の次年度早期に入学者選抜の公正性、適切性を検証した。令和 3 年度以降も引き続き同委員会にて検証を行い、適切な入学者選抜の実施に努めている。 入試制度の検討及び入学後の追跡調査の足掛かりのため、まずは入学者における入学時の成績情報（学力試験）の一元管理を実施した。

Ⅱ　研究

中期目標	中期計画	当期の実施状況
Ⅱ　研究に関する目標 **（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標** 15）世界的研究・教育拠点にふさわしい世界をリードする学術研究環境を創出する。	**Ⅱ　研究に関する目標を達成するための計画** **（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための計画** 33）基盤研究の充実を図るために、健康総合大学としての特徴を活かした独創的・先端的な研究成果を上げるとともに、基礎研究及び異分野融合研究の推進と新たな研究フロンティアの開拓を目指す。	**Ⅱ　研究に関する目標を達成するための実施状況** **（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための実施状況** （大学）本学の資源を有効活用し、部門横断的な研究の推進を図るために、健康総合科学先端研究機構を整備し、本学の特筆すべき分野・領域のプロジェクトを選定し、本学の医学・スポーツ領域の開拓とともにブランディング化を図った。 またスポーツ領域の教育・研究・産学連携の推進と強化のため、スポーツ健康医科学推進機構により学内スポーツ系部門横断型プロジェクト推進等の基盤拡充を図った。 （スポーツ健康）大学院スポーツ健康科学研究科が、附置研究施設のスポーツ健康医科学研究所を中心にスポーツ健康医科学推進機構と連携して、独創的・先端的な研究成果を上げるべく研究活動を活性化している。 （保健看護）医学部、スポーツ健康科学部等、他学部との共同研究を推進している。公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムが発信する共同研究にも積極的に参画している。 （国際教養）大学院医学研究科を併任する教員が多く、特に医療、ヘルス、医療通訳の分野において健康総合大学としての特徴を活かした横断的な研究活動を実践している。
16）世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域における本学の役割を認識し、国内外の企業や研究機関との連携を強化するとともに研究を促進し、その成果を広く社会に還元する。	34）本学の研究力の強化を図るために、外部の専門機関等を活用し、外部資金の獲得額等を含むデータベース分析及び客観的評価指標（論文数、Top10％補正論文数等論文の質・量等の評価指標、外国人研究者の招聘数などのグローバル化指標等）を用いたＩＲ（Institutional Research）による研究水準評価を実施する。	（大学）各研究センター・研究所の業績の把握及び若手研究者の研究活動状況を判断する材料として、クラリベイト社に研究センター・研究所ごとの論文業績による分析を依頼し、評価を行った。 科研費に関する各種情報を文部科学省のデータベースより抽出・分析し、本学・他学の受給額の動向を調査するとともに、他学との比較から、本学の研究水準の評価を行った。
	35）国際共同研究の推進を図るために、海外研究機関との研究ネットワークを活用し、大学間の連携活動を強化する。その成果として国際共著論文数の増加を図る。	（大学）特筆すべき研究成果について、積極的にプレスリリースを行った（令和５年度実績 14 本）。成果内容は、国際共著論文への発展を想定し、国内外の研究者がアクセスする世界最大の科学系プレスリリースのプラットフォーム（EurekAlert!）への掲載も行った。
	36）令和４年度を目処として国外向けの英語版情報発信サイトを拡充する。	（大学）最新研究に関する国内向けプレスリリースの内容を英文化し、本学英文ウェブサイト、および世界最大の科学系プレス

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		リリースのプラットフォームである EurekAlert!に掲載し、世界のウェブメディアにも配信した。海外向けの SNS（twitter）を立ち上げ、上記の内容の発信を開始した。
	37）産業界・行政・研究機関等と連携した研究プロジェクトを国内外や地域横断的に企画推進するとともに、研究成果についてホームページをはじめとする各種のメディアを通して積極的に発信し、産業創出の牽引を図る。	（大学）産学連携の推進を想定し、医学系講座・研究室の取組を「研究紹介」として和文・英文で作成し、研究業績と共にホームページで公開している。また、各センター・研究所のブランディング化を図るために、主な研究活動を紹介するパンフレットを作成し、研究成果の発信に努めた。
（2）研究実施体制等に関する目標 17）世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を促進するための研究体制を再編・強化する。	**（2）研究実施体制等に関する目標を達成するための計画** 38）研究科においては、学問分野をリードするとともに、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応できる研究体制を構築する。大学院附置研究施設（研究センター・研究所）は、先端的かつ学際的な異分野融合型の研究を推進し、社会の変化に柔軟に対応できるような研究体制を目指してより一層の強化を図る。また本学ブランド研究の推進を図るために学長のリーダーシップのもとに部門横断型プロジェクト研究を立ち上げ、事業支援組織の「健康総合科学先端研究機構」（平成 29 年度整備）を研究拠点として全学的なプロジェクト研究の推進を図る。	**（2）研究実施体制等に関する目標を達成するための実施状況** （大学）本学の研究基盤である附置研究センターを拡充するために大学院医療看護学研究科にシミュレーション教育研究センターを令和 4 年 2 月設置して、学部・研究科が保有するシミュレーターを集約化し、拠点化を図ることで優秀な若手研究者や附属病院を含めた高度実践看護師の人材育成とともに、看護教育学の研究活性化及び看護研究の更なる推進を図った。 健康総合科学先端研究機構では、医学・スポーツ・臨床研究領域のブランディングプロジェクト研究として 13 件を選定し、順天堂ブランドのプロジェクト研究として組織的に支援した。設置期間などが終了する、共同研究講座・寄付講座・競争的研究費によるプロジェクトで、本学の研究力強化とブランディング化が期待できるプロジェクトについては、学長のリーダーシップにより、機構プロジェクトとして認定し、組織的に支援を行った。令和 5 年度は、共同研究講座を発展させて、バイオリソースリサーチセンターを設置した。同センターは、教職員の健診検体等を利活用し、データバンキング化の推進と発展させるため、機構下の拠点プロジェクトセンターとして整備した。
	39）産業界・行政・研究機関等との共同研究グループを容易に構築できるように、健康総合科学先端研究機構（私立大学研究ブランディング事業の選定に伴い整備）をコアに、部門横断型プロジェクトを構築し、医工連携などの異分野交流の場の拡大と有効化を図り、リサーチアドミニストレーター（以下「ＵＲＡ」という。）による研究支援を推進する。	（大学）文科省補助事業として、健康寿命延伸プロジェクトを産学官連携により推進してきたＣＯＩプロジェクト事業を組織的に継続支援するため、令和 5 年度、機構下にジェロントロジー研究センターを設置した。健康寿命延伸を課題としたプロジェクト共同研究を学内で募集し、保健看護学部、国際教養学部、スポーツ健康科学部の教員を研究代表者とする計 4 件の共同研究を採択し、定期的に情報交換会を開催し、センタープロジェクトとして組織的に支援を行った。ＵＲＡを中心として実施してきた連携大学及び関連企業による共同研究は、継続実施し、社会実装化に向けた検証を機構下においても継続実施する。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
○研究者等の配置 18）国際的に最高水準の研究を展開するために研究者等の適正配置を進める。	○研究者等の配置に関する計画 40）学術研究活動の高度化を促進するために、戦略的見地に立った公正で透明性の高い人事を遂行し、優秀な研究者を確保する。本学の学風「三無主義」に基づき、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材について既に定めている割合に基づき積極的に登用する。 男女共同参画推進に関する研修・フォーラムの開催や研究支援員等の配置の補充、質の確保及びワーキングシェアの導入によって研究と出産・子育て・介護等のライフイベントとのバランスを配慮した女性研究者が活躍できる環境作りを行い、女性研究者比率30%以上の達成を目指す。 本学の研究基盤を支える大学院附置研究施設の研究力を強化するために、特に優秀な若手研究者を学長裁量により特任助教で任用する「次世代若手研究者育成プログラム」の継続実施を目指す。	○研究者等の配置に関する実施状況 （大学）優秀な若手研究者として文部科学省から認定を受けた若手研究者を卓越研究員として健康総合科学先端研究機構に2名受入れ、研究領域を考慮し、臨床腫瘍学、神経学を併任配置した。 平成29年に卓越研究員として採用した特任助教1名については令和4年にテニュアトラック審査を行った。研究の継続と今後の活躍が期待できる若手研究者と評価し、健康総合科学先端研究機構が、令和5年度以降も引き続き、特任助教として研究者支援を行うこととした。 研究活動の高度化を図るために共同研究講座等を積極的設置し、優秀な人材を学内外から特任教員等で積極的に登用した。 女性研究者の割合を高めるために令和5年度は55名の採用し、採用比率は30.2%となっている。 大学院附置研究施設の研究力を強化するために、学長裁量による「次世代若手研究者育成プログラム」により、特に優秀な若手研究者2名を特任助教として任用した。
○研究環境の整備 19）研究リソースの集約化・一元管理に取り組み、研究機器等の学内外における共用化を進め、計画的な整備や更新、安定的な維持管理を行うとともに様々な研究分野の研究者の相互交流による研究水準の向上を図り研究力強化を進める。	○研究環境の整備に関する計画 41）研究施設・設備・機器等の共同利用化を推進するために現行の研究基盤センターを基礎・臨床分野の拡充のために再整備を検討し、最先端の研究を実施する体制と機能の強化を図る。 42）革新的医療技術開発センターの設置に伴い、産学による「組織対組織」の大型の共同研究を推進するマネジメント体制が整備されたことを受け、オープンイノベーション推進のためのオープンイノベーションプログラム「ＧＡＵＤＩ（Global Alliance Under the Dynamic Innovation）」を積極的に展開し、附属6病院の臨床力を活用し、新たな医療技術の早期実用化を目指す。	○研究環境の整備に関する実施状況 （大学）大型研究機器の共同利用化を推進するため内閣府ムーンショット事業を利活用し、大型機器の学内整備と共同利用に向けた連携・支援体制を整備する。 令和5年3月に文部科学省研究環境課の設備・機器等の共同利用を担当する専門官が来学し、研究基盤センターを見学するとともに関連スタッフと意見交換を行った。 （大学）附属6病院の臨床力を利活用し、臨床研究の推進を図るために、ＧＡＵＤＩプロジェクトを活用しオープンイノベーションの推進を図るために企業の積極的な参画の推進を図った。
○研究者支援 20）世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を行うために必要な支援体制を整備する。	○研究者支援に関する計画 43）基盤的研究環境の維持発展や先端的、独創的、学際的研究の推進に向けて、ＵＲＡによる研究支援体制の一層強化・拡充を図るため、中長期的にＵＲＡ人材を確保・育成を図る。	○研究者支援に関する実施状況 （大学）研究支援基盤の拡充を図るために、平成24年2名のＵＲＡによる研究支援体制から、令和5年度は5名のＵＲＡを配置して先端的、独創的、学際的研究の推進及び産学連携推進に

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		向けた取組をしている。 令和５年度末に１名の退職となったが、ＵＲＡによる研究支援体制の強化を図るために年間を通しての公募を行い、２名を新規に採用した。（令和６年４月に１名が着任、６月に１名が着任する（ＵＲＡ全６名体制））。
	44）優れた若手研究者・女性研究者、外国人研究者等のワークライフバランスを調整し、その能力を発揮させるために、ＵＲＡを配置した研究戦略推進支援センターの研究支援体制の強化を図る。	（大学）優れた若手研究者・女性研究者、外国人研究者等の研究活動と生活の調和を図るために、関連部署（ダイバーシティ推進センター他）と連携し、ＵＲＡが研究諸活動の支援（研究計画のレビュー等）行い研究者の研究推進と強化支援を行った。
	45）研究の質の向上を図り、優れた研究者の養成及び活躍を促進するために、公正な評価に基づき、能力や業績に報いる制度を整備する。また研究業績の全学統一管理を図るために研究業績共通管理ソフト EndNote をライセンス導入し研究業績管理基盤整備の実現を図る。	（大学）研究業績の全学統一管理を図るために文献管理ソフト EndNote をライセンス導入し、研究業績管理の共通化をはかるために、学内ダウンロードサイトを更新し、利用者拡大を推進した。また学部増設に伴い、ライセンス枠の増設についても適宜対応した。

Ⅲ　診療

中期目標	中期計画	当期の実施状況
Ⅲ　診療に関する目標 21）大学病院としての医療の質の向上を図り、高度・先進的な医療を提供する。	**Ⅲ　診療に関する目標を達成するための計画** 46）医療の質を向上させ、診療体制、医療安全管理体制及び院内感染管理体制の強化を図る。	**Ⅲ　診療に関する目標を達成するための実施状況** （医院）令和５年１月にリプレースした新医療情報システムにより病床稼働率や空床状況が瞬時に確認出来るようになり、今まで以上に効率のよい病床の有効利用が期待される。また従来では対応できなかった様々なデータの抽出が可能となり、抽出データの利活用により医療の質向上が期待できる。コロナ禍での職員間感染防止の観点より、会議・会合等はオンライン又は一部対面によるハイブリッド開催を継続するとともに、メール配信機能を整備し、院内通知や重要事項等の伝達について全職員への迅速かつシームレスな情報共有に努めている。また、メディカル・メタバース共同研究講座において開発されたバーチャルホスピタルの整備により、Ｗｅｂ上でアバターを操作し、来院前に院内施設の把握が可能となり、コロナ禍においてもスムーズな受診に繋がっている。 （静岡）会議の対面とＷｅｂを併用したハイブリット開催及び研修会の e-ラーニングやＤＶＤ受講を推進した。医療の質向上及び患者利便性向上を図るべく行われた次の活動に必要な設備を整備している。①手術支援ロボット更新、②増床・病棟増設、

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		③歯科・歯科口腔外科開設、④PET-CT 装置更新、⑤MRI 増設準備、⑥その他Ｈ棟Ⅱ期棟竣工に伴う機能移転・拡張準備。令和 4 年度にＴＡＶＩの実施施設に認定され、令和 5 年度には、約 70 件の治療を実施した。ダヴィンチを使用した手術は、泌尿器科、呼吸器外科、外科で実施しており、令和 5 年度には、約 90 件の治療を実施した。また令和 5 年度より新たに泌尿器科で術式：腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術、外科で術式：腹腔鏡下胃切除術悪性腫瘍手術が追加となった。静岡県より増床が認められ、5 月 1 日より、607 床、6 月 5 日から 628 床、7 月 1 日から 630 床で運用を開始した。2024 年度の増改築工事完了後 633 床での運用開始を予定している。 （浦安）フットケアセンター、身体（からだ）機能検査センターを開設するなど専門医療・各センターの充実と高難度・ロボット支援手術の拡大を図った。また 9 月には千葉県で 2 施設目の高度救命救急センターに指定、千葉県結核患者収容モデル病床として陰圧管理が可能な病床 3 床を整備するなど、地域の基幹病院として機能向上を図った。 （越谷）精神医療を中心とした埼玉県東部地域の中核病院として、専門性の高い精神医療（修正型電気けいれん療法、難治性統合失調症薬物療法等）を提供し、周辺病院との医療連携を推進した。膠原病やパーキンソン病等の神経難病についても、専門医による高度な医療を提供し、関連病院との医療連携を進めている。 （高齢者）血管撮影装置及び眼科手術顕微鏡を更新し、医療の質の向上を図った。また土日祝日の救急室の内科医師を増員し、受け入れ強化と医療安全を向上させた。 （練馬）地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、新型コロナ感染症重点医療機関、地域周産期母子医療センターの認定に続き、令和 5 年 3 月には東京都から 3 次救急指定病院の指定を受けた。練馬区周辺の患者に対し幅広い高度な医療を継続提供することにより地域の高度急性期病院としての中核を担っている。ロボット手術等低侵襲手術、副作用が低い最先端抗がん剤治療、ＱＯＬに資する周術期口腔治療等、各診療科は患者視点での安心安全な医療に取り組んでいる。 ○新型コロナウイルス感染症への対応 （医院）感染法上の分類が 5 類になったことを受け、患者の出入口は 1 号館正面玄関のほかに、C 棟出入口の開放を行った。出入口には、サーマルカメラを設置し、発熱患者のトリアージを

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		実施している。また必要個所には、アクリル板や空気清浄機を導入する等院内の環境整備に努め、ユニバーサルマスクポリシーを遵守している。なお、令和２年４月より設置していた「発熱外来」は廃止した。予定入院患者について入院前ＰＣＲ検査を全件実施、緊急入院等迅速に対応を要する患者用にＰＯＣＴ検査を導入していたが、徐々に緩和を行い、予定入院については、全例ＰＣＲ検査を廃止し、入院時の医師による健康チェックを強化して、院内感染防止に細心の注意を払っている。外来診療においては、オンライン診療の導入、あと払いクレジットサービスと薬剤配送サービスの連動、ウォークスルー検査等を導入して混雑（密）の緩和に努めている。また通院支援アプリ「マイホスピタル」を促進し、患者さんの快適な受診環境の提供に努めている。入院診療においては、面会制限の不満を少しでも緩和するためにｉＰａｄを利用して面会を実施している。特定機能病院としての責務を果たすために、本年度も東京都の要請に応じて入院重点医療機関の登録を行い、流行状況に応じて、病床を確保している。 （静岡）新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設として、当院の医療従事者をはじめ、保健看護学部学生及び一般市民に対し春接種（6 回目）、秋接種（7 回目）のワクチン接種を行った。令和 4 年 3 月から開始した小児（5-11 歳）を対象とした初回接種（1、2 回目）及び追加接種（3、4 回目）を継続。令和 4 年 11 月から開始した乳幼児（生後 6 ヶ月-4 歳）を対象とした初回接種（1､2､3 回目）の接種を継続して行った。これまでに延べ約 60,000 回の接種を行った。 （浦安）COVID-19 が 5 類に分類された以降も、継続して感染対策の強化しながら、地域から多くの患者を受け入れた。また、後遺症のある患者についても受入れを行った。ワクチン接種については、浦安市との連携を強化して、個別接種の受入れ、市民向け接種会場へのスタッフ派遣等、接種率向上に貢献した。 （越谷）新型コロナ感染症対策のため、毎朝受付開始より外来患者向けの出入口の制限及びトリアージ・発熱者専用の臨時診察室の設置・手摺等の定期的な消毒を継続している。入院患者には、入院時に全例ＰＣＲ検査の実施と個室管理を徹底し、また、外出・外泊・面会を制限して院内クラスターを含む感染対策を行った。新型コロナ感染症後の対応として、全診療科で連携したコロナ後遺症外来を実施している。 （高齢者）東京都からのコロナ病床確保の協力要請に対して、第 8 波時に閉鎖病棟である 5B 病棟をコロナ病棟に変更し、感染

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		管理体制を強化した上で、対象病床を 18 床から 24 床に増床した。高齢者、認知症患者等のコロナ陽性患者を積極的に受け入れた。 　感染症法上の対応変更後も院内でのマスク着用は継続とした。一方、入院時の疑似症以外のSARS-CoV-2 PCR検査は廃止した。新型コロナウイルスワクチン接種施設として、医療従事者、近隣の高齢者施設の従事者、江東区民への接種を実施している。 （練馬）新型コロナウイルス感染症の 5 類化以降も、他疾患患者への影響を未然に防ぐ病床管理を徹底している。同時に、新型コロナウイルス治療の経験を活かし、新たな感染症への対応を強固なものにすることにより、地域住民に安心医療をお届けする。
22）地域と国際社会に開かれた医療機関として社会に貢献する。	47）国民の幅広い医療ニーズに対応し、地域医療の推進と連携体制を強化する。	（法人）浦和美園新キャンパス（仮称）整備事業については、2022(令和 4)年 5 月に設立準備委員会が発足し、最先端の医療機能を兼ね備えた次世代型高度急性期病院の実現に向けて基本設計の作業を進めている。 （医院）「医療連携を共に考える会」等、他医療機関を交えて行っていた会場集合型の会については、昨年度に引き続き感染状況に応じて対面とＷｅｂによるハイブリッド式又はＷｅｂ単独開催で行う等、開催方法を工夫しつつ連携の継続を図った。 （静岡）地域医療支援病院として、引き続き近隣医師会と連携し、歯科口腔外科開設に伴う近隣歯科医師会へ訪問等連携を強化している。年 1 回「医療連携だより」を発刊。地域医療連携推進法人設立後、2 法人が追加となり更なる地域包括ケアシステムの構築を図りつつ地域医療連携システムの導入を検討している。高等学校と大学の相互の教育に係る交流・連携を通じ、高等教育・大学教育の活性化を図るため、静岡県立韮山高等学校と高大連携による協定を締結した。 （浦安）地域医療支援病院の指定に加え 8 月には紹介受診重点医療機関の指定を受け、地域医療機関との連携を強化すべく、各診療科の医師と直接連絡が取れる地域連携ダイヤルの活用や地域連携フォーラムの開催、連携だよりの発行による情報発信を行った。更に、医療情報メディアサイトを活用した動画配信を行った。紹介率・逆紹介率ともに 80%を超えた。 （越谷）埼玉県精神医療審議会の審査員として、越谷市精神保健専門相談事業及び自殺対策連絡協議会への運営協力として、医師を派遣している。関東信越厚生局からの要請を受け、心身喪失者等医療観察法に基づく指定通院医療機関となっている。東

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		京出入国在留管理局からの要請で、外国籍の方の医療保護入院による治療を３カ月間実施した。 （高齢者）近隣３区の医師向けに「高齢者医療に関する WEB 学術講演会」を毎月１回開催した。また連携強化として紹介の多い近隣医療機関を訪問している。認知症疾患医療センターにおいて、地域医療従事者への認知症ケア研修会や連携協議会の開催、患者・家族・医療従事者の交流会、認知症専門情報誌の発刊等を実施している。 （練馬）地域要請の高い救急診療や小児医療に対応するため、入院日数を短縮し、急性期治療が必要な方へ適切な治療が届くような体制づくりに努めている。ＰＦＭ、クリニカルパス、後方連携を強化し、地域包括ケアシステムのなかで切れ目ない医療・介護が受けられるような橋渡しをする。 近隣の医療機関に対しては、当院の電子カルテを公開する等ＩＣＴの活用を通して紹介・逆紹介をスムーズに行っている。
23）質の高い安全で安心な医療体制及びＩＣＴ化を更に強化する。	48）患者満足度向上のために、療養環境の改善や広報活動による患者サービスの強化を図る。	（医院）2019 年より開始したあと払いクレジットサービスや薬剤配送サービスとの連動により会計窓口や薬受取窓口の混雑緩和や待ち時間に効果が出ている。ウォークスルー検査の導入やオンライン診察の導入により待ち時間の解消に努めている。また通院支援アプリ「マイホスピタル」を促進し、患者さんへの快適な受診環境の提供に取り組んでいる。 （静岡）市民公開講座は年度の途中までミニレクチャーとして隔月Ｗｅｂ開催し、その後、対面とＷｅｂのハイブリッド方式による市民公開講座を実施した。その他、年４回広報誌「J’s」を発刊。またＬＩＮＥによる外来患者順番通知システム開始後、登録者数が約 25,000 件となっている。ハローワークと合同で毎月、がん患者に対する就労相談会を実施している。増床を行い、入院待ち日数短縮を図った。 （浦安）４月に院内売店、レストランのオープン、患者休憩コーナーの整備を行い、利便性の向上を図っている。また身体（からだ）機能検査センター開設に伴い、採血ブースを増設し、採血待ち時間を短縮、院内滞在時間の短縮を図っている。入院手続きの簡素化を図るため LINE を用いた「ポケさぽ」や予約確認ができる「コンシェルジュ」を導入するなど、入院・外来待ち時間対策を進めるとともに、スマホでも見やすいホームページ、病院ニュース、information コーナーなどを活用し、病院情報を発信している。 （越谷）患者満足度向上のために広報活動として、病院ホームペ

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		ージに各診療科及びコ・メディカル部門による市民向け健康講座の動画を配信している。また患者満足度調査を実施し、患者サービス向上に努めている。 （高齢者）病院ホームページをリニューアルし、高齢者にも見やすいページ設定としている。病棟に無料 Wi-Fi を設置し、入院環境を改善している。コロナ禍で控えていた対面方式の区民健康講座を復活させ、近隣住民の当医療センターに対する理解を更に深めている。 （練馬）院内の患者に対しては、スマートフォンアプリコンシェルジュによる自動受付・自動呼出し・情報発信・あと払い会計等の利用拡大を推進し、待ち時間短縮と利便性向上に努めている。また来院が困難な方へのオンライン診療を推進している。地域の方の健康増進等を目的に専門看護師・認定看護師によるアプローチ、研修会や展示などを企画し、情報発信、情報交換を行っている。
24）全人的医療を行う優れた医療人育成のための教育を充実する。	49）災害時における初期救急医療体制の充実を図り、災害拠点病院としての機能強化を図る。	（医院）令和 5 年 10 月に自衛消防力診断審査を受け、金賞を受賞している。また元旦に発生した能登半島地震の支援として、当院より医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 1 名からなるＤＭＡＴチームを派遣し、参集場所の能登中央保健医療福祉局調整本部にて 3 日間、他施設のＤＭＡＴチームの派遣調整や周辺情報集約等の活動を行い、無事に帰還した。 （静岡）ＤＭＡＴとして地方公共団体等と連携し、大規模地震時医療活動時に係る組織体制の機能と実効性の確認を行う訓練に参加した。また院内災害訓練を開催し院内体制の検証を行っている。 （浦安）ＢＣＭ（Business Continuity Management：事業継続マネジメント）委員会を中心に、継続的なリスク評価と、令和 6 年 3 月には総合災害訓練を実施した。また 1 月に発生した能登半島地震には、当院ＤＭＡＴ隊を派遣し、避難所等の支援活動を行った。 （越谷）火災訓練及び水防法に基づく避難訓練を年合計 3 回実施した。埼玉県によるＤＰＡＴ訓練に継続的に参加し、災害時の精神科支援を行えるよう準備している。 （高齢者）令和 5 年 7 月に火災訓練、令和 5 年 12 月に総合防災訓練を実施した。また、東京都、江東区と防災行政無線通信訓練を定期的に実施した。 （練馬）練馬区と連携し、災害発生時の対応についてマニュアルを作成し、毎年訓練を実施している。総合防災訓練、消火、誘

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		導訓練を年３回実施し、ＢＣＰ（Business Continuity Plan：事業継続計画）の見直しを行っている。3 次救急参画に伴い、東京ＤＭＡＴに参加、ＤＭＡＴカーの運用を行っている。
25）大学病院の運営体制を整備・強化し、健全な運営基盤を確立する。	50）患者の心身両面に配慮した医療を的確に提供できる「チーム医療」を推進する。	（医院）患者サービス支援センターを中心に、医師、看護師、薬剤師、事務員により入院支援センター及び術前外来の充実を図り、入院時のトラブルを未然に防ぐとともに退院時においてもサポートの充実を図っている。 （静岡）精神科リエゾンチームを発足させ、抑うつ若しくはせん妄を有する患者、精神疾患を有する患者又は自殺企図により入院した患者への診療を実施している。 （浦安）4 月にフットケアセンターを開設。複数診療科、多職種によるチーム医療を実践している。またＮＳＴ、緩和ケア、褥瘡、ＲＳＴ等、多職種によるチーム医療の推進。クリニカルパスの使用率向上を図った。患者支援センターでは、入院から退院まで、早期から患者・家族に介入し、療養生活を支援している。 （越谷）チーム医療として、ＩＣＴ、褥瘡対策チームが活動しているが、新たにＮＳＴを立ち上げ充実を図っている。 （高齢者）入退院支援チームとして患者・看護相談室と医療福祉相談室が活動している。褥瘡対策、ＮＳＴ、ＩＣＴ、糖尿病、緩和ケア、認知症ケア等の多職種チーム医療にて患者・家族への医療サポートを実施している。 （練馬）入院支援室による多職種連携（看護師・薬剤師・栄養士・歯科受診）により入院前支援と共に退院・在宅支援の拡充を進めている。更に多職種連携でのＮＳＴ、ＩＣＴ、ＲＳＴ、緩和等の活動を行っている。入院前から患者が安心して治療を受けられるように情報を一元化し、質の高い入退院支援を行っている。地域や行政とも連携を強化し、切れ目のない支援によって患者満足度の向上を目指している。病床の効率的かつ有効活用を行い、多くの患者を受け入れる。
	51）国際社会に開かれた医療連携の促進を図るため、病院広報の国際化及び外国人患者診療受入体制の整備を推進するとともに、医療・医学教育・医学研究に関して諸外国と連携して人材交流を進める。	（医院）大使館員など在留外国人の受け入れに力を注ぐとともに、院内印刷物やホームページの多言語化を進め受け入れ態勢を整えている。 （浦安）近隣テーマパークからの外国人患者を受入れている。タブレットを活用するなど、多言語対応を整備している。 （練馬）多言語対応機器を各受付など必要部署へ配置している。ウクライナからの留学生の病院実習を受け入れた。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	52）臨床研究支援体制の整備拡充を図り、治験実施件数のアップを図る。	（医院）院内主要会議において実施状況を逐次報告し、啓蒙を行っている。 （浦安）外部資金の確保（科学研究費、共同研究講座等）。治験件数のアップ。特定臨床研究の件数アップを推進している。
	53）ＰＤＣＡサイクルにより実習体制の整備、質の高い研修プログラムを整備拡充するとともに、地域医療機関との連携を強化し、卒前・卒後の一貫した教育・研修体制を充実させる。	（医院）臨床研修医に行ったアンケートをもとに病院幹部及び臨床研修センター長、各診療科の科長及び研修教育担当者が面談を行い、研修医教育充実のための方策について検討を行い、実習プログラムの充実や体制の整備を行っている。 （静岡）初期研修医から研修プログラムの改善点をヒアリングし、医療教育及びグローバルな視点で英語教育を実施し、教育及びＱＯＬへと反映させた。初期研修医への定期的な進路面談によりニーズを把握し、専門医プログラムへの反映・拡充を行った。 （浦安）実習プログラムの充実と本学学生だけでなく、他学、他施設、外国人などの受入れ強化を図った。 （高齢者）臨床研修医にアンケートを行い、それをもとに病院幹部及び各診療科の科長が面談を行った。研修医教育充実のための方策について検討を行い、実習プログラムの充実や体制の整備を行う計画を立てている。 （練馬）研修状況や希望を個別面談と全体打合せ会で聞き取りを行い適時改善に努めている。
	54）初期臨床研修プログラム及び研修環境を改善し、専門医制度改革に伴う専攻医の育成において大学病院としての機能を果たす。	（医院）基本的臨床能力評価試験（ＧＭ－ＩＴＥ）を導入し客観的評価に基づいて研修環境の整備を実施する。 （浦安）臨床研修医の確保（マッチ率 100％）に向けた取り組みの充実。専門医教育の充実。 （練馬）環境改善として、研修医からの要望により、病棟の電子カルテ増設を行った。
	55）健全な経営基盤を確立するために、病院事業に必要な収入を確保し、適切な支出管理を行う。	（医院）各種委員会にて月次の収支チェックを実施しており、支出に関してシステムを有効に利用したより精緻で包括的な資料の作成を検討している。 （静岡）月次で予算執行状況を把握し予算管理。あわせて、取引業者の選定や価格交渉、廉価品への変更による経費削減を実施。令和 5 年度は、診療報酬改定が行われなかったため、主な新規届出はなかったが、ＤＰＣ機能評価係数が 0.0187 増加しことにより年間 9,000 万円増収効果があった。また 9 月より歯

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		科口腔外科を開設し、入院全身麻酔の患者、放射線治療・化学療法の患者に対する診療を開始している。 （浦安）病床有効利用推進本部による病床利用率97.5%を目標に対策強化、施設・設備・機器・人材を有効に活用しながら、医療収入を安定化する一方で、適正な保険診療（コーディング）の実施、機械材料委員会による審査継続、環境活動推進委員会によるエネルギーコスト削減などの経費抑制に努めている。 （越谷）毎月の収支予算執行状況について、予算残高表を作成し管理している。各種会議にて、毎月の稼働状況を報告し適切な保険診療の実施及び経費等の使用について啓蒙をした。 （高齢者）収入確保のため、8月から紹介受診重点医療機関の認定を受け、診療報酬増に努めている。東京都の「高齢者専門病院運営費補助金」が本年度で終了となるため、収入減少に備え医療情報システム更新等の大型設備投資について内容を見直した。各種会議にて毎月の稼働状況を報告し、適切な経費使用や保険診療の実施について教職員を啓発している。 （練馬）紹介逆紹介の強化による新規患者の増加、過不足のない保険請求、新規加算取得、医療係数アップ等を通じて収入の最大化と継続増収を目指している。支出面では、設備投資の厳選、過去投資分の回収状況の確認、材料の標準化への取り組み、複数社購買によるコストダウンの強化を通して経費削減を図っている。
	56）先端医療・臨床研究の安全性・品質を担保するため、倫理教育プログラムの充実、研究支援・モニタリング体制の整備等組織としての管理体制を一層強化するとともに、医療の質の向上のため、医療安全体制を強化し、定期的に第三者の機能評価（日本医療機能評価機構）の受審・認定を受け、更に質の高い医療の提供に努める。	（医院）令和5年9月4日～6日にかけて、病院機能評価「一般病院3（Ver.3.0）を受審した。概ね適切な運営がなされているとの評価であったが、今回の受審を踏まえて、自院が取り組むべき様々な課題を認識し、さらなる病院管理体制の充実や医療の質につなげていくとともに、安心安全な医療の提供に取り組んでいく。 （浦安）病院機能評価更新（令和6年6月）に向けての準備を進めている。先進的医療の実施と事前審査の適正化を図った。 （越谷）令和6年12月の病院機能評価受審（新規）に向け、準備を始めた。 （高齢者）病院機能評価について、令和6年6月～8月に予定している期中の確認書類審査に向け、各部署にて改善事項や業務の質の向上に向けた取組みについて確認している。 （練馬）病院機能管理室を発足させ、令和6年2月には病院機能評価（日本医療機能評価機構）を受審した。医療安全や感染対策を中心に、安心安全な医療の提供の仕組評価を受けた。ＱＩ

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		活動はPDCAの流れに注視する一方、日本病院会ＱＩプロジェクトへの参画を通してベンチマークを行なっている。
	57）社会・地域の要請に応え、医療従事者の生涯教育を行い、高度な知識・技能・人格を兼ね備えた優れた専門医療人の育成に取り組む。	（医学研究科）放射線技師、臨床検査技師等の医療従事者を大学院医学研究科に社会人大学院生として受け入れ、研究指導等を通じた生涯教育を実施し、高度専門職業人・医学研究者の育成を行っている。 （浦安）e-learningを活用した院内教育の強化と、外部Web研修の有効活用を推進した。医療安全・感染対策・個人情報の必須講習は受講率100％を達成した。 （高齢者）認知症疾患医療センターが中心となり、東京都及び区東部地域の医療従事者、福祉・介護従事者に向けた認知症研修会などを開催し、専門医療人の育成に取り組んでいる。 （練馬）各診療科で実施している地域・専門的勉強会などの開催状況を整理し、専門・認定看護師による地域看護師などの医療者向けの講演会や勉強会を含め、より多くの院内外医療従事者に参加いただくよう広報に努めた。コメディカル等の医療従事者を、社会人大学院生として、進学を推奨し、高度職業専門人として育成している。

Ⅳ 社会貢献

中期目標	中期計画	当期の実施状況
Ⅳ　社会との連携や社会貢献に関する目標	**Ⅳ　社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための計画**	**Ⅳ　社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための実施状況**
26）世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域の発展に貢献するための幅広い連携活動を展開する。	58）大学の様々な資源・機能を活用して、国内外の大学間連携、産学官連携及び自治体等との連携による各種プロジェクトや公開講座、各種セミナー等を積極的に実施し、研究成果を社会に還元にする。	（大学） 1．大学間連携、産学官連携及び自治体等との連携 （1）自治体等と組織的な連携体制を構築し、教育の振興、健康支援等、地域社会に寄与することを目的とした取り組みを継続している。当期は、東京都との連携事業「東京都と大学との共同事業」の採択を受けた「東京デフリンピックに向けたＡＩ手話翻訳ツールの活用とボーダーレススポーツイベントの開催」の活動として、デフリンピック大会の紹介、デフラグビー選手との交流、SureTalk（ＡＩ手話翻訳ツール）体験などを実施した。デフリンピックを知らない層に東京2025デフリンピック大会を紹介し、認知度を向上させ、聴覚障害者の「聞こえないことによるコミュニケーションの難しさ」をデフラグビー選手との交流を通して一般社会に広めることで、東京2025デフリ

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		ンピック大会を成功させることを最終目標に掲げ、活動を行っている。 (2) 「健康・体力増進事業（児童の体力向上推進事業・がん教育）」として文京区との連携を強化した。本学教員が大学の知的資源を還元している。 ①体力向上事業【データ分析、体力向上推進プランへの指導・助言、訪問指導（区内 20 の小学校への教員派遣）、体力向上イベントの実施、体力向上啓発資料の作成、体育指導に関する動画資料の作成】 ②がん教育 ・授業公開（小中学校に教員を派遣し、がん教育の授業を実施） 2. 自治体等との連携による研究成果の還元 (1) 教育や研究の成果を広く社会に還元・共有する取組を行うため、健康の増進を目的として東京都、東京都医師会の後援を受け、一般の方々が多く関心を寄せる様々な疾患・病態等をテーマに、本学の教職員がわかりやすく解説をする都民公開講座を開催した。 〈第 51 回都民公開講座：「人生 100 年時代　健康長寿を目指して今できること」、第 52 回都民公開講座：「AI・データサイエンスを駆使した未来の健康と医療」〉（Zoom 併用ライブ配信） （スポーツ健康）スポーツ健康科学部が有する人的・物的資源を生かし、地域のニーズ等を把握しつつ、公開講座の開催や各自治体等への講師派遣を積極的に実施している。さらに関連する各部門・委員会と連携して、「中学校における運動部活動の地域移行」について、自治体の協議会に積極的に参加し、自治体の要請に応じた具体的な受入体制の検討を進めている。 （医療看護）浦安市、ベイシニア浦安（老人クラブ連合会）との連携により年間 6 回の公開講座を実施した。また看護教育の一環として学部 4 年生を中心に、老人クラブにて介護予防の講座を行った。 （保健看護）公開講座は年に数回に開催し、三島市が主催する健康増進を目的とした「みしま教養セミナー」についても、毎年依頼を受け教員を講師として派遣している。 （国際教養）難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けた取り組みを行う国連機関の一つ「UNHCR」と大学パートナーズとして提携し、毎年、難民映画上映会を公開講座として開催している。令和 5 年度は上映会後に、難民に対する知識・関

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		心を高めるワークショップを開催し、3年生の学生がファシリテーターを務め、学外一般者も参加した。コロナ前に開催していたシンガポール国立大学との合同国際フォーラム「持続可能な健康長寿社会」を再開した。 （保健医療）理学療法、診療放射線における研究成果を積極的に社会に還元するため、市民公開講座を実施している。 （医療科学）11月に学部開設記念シンポジウムを開催した。行政、企業、学生、一般人を対象とした基調講演・パネルディスカッションを実施した。また1月には国際交流講演会として、米国Venderbilt大学の講師による講演会を開催した。世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域の発展に貢献するための幅広い連携活動を展開している。 （健康データサイエンス）11月に学部開設記念シンポジウムを開催した。行政、企業、学生、一般人を対象とした基調講演・パネルディスカッションを実施した。また3月には国際シンポジウムを開催した。世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域の発展に貢献するための幅広い連携活動を展開している。
27）地域の持続的な発展と豊かな社会の実現のために学内資源を活用した社会貢献と地域連携を推進する。	59）地域社会との連携活動を全学的に推進するために、関係機関との持続的な連携・協働体制を構築し、社会連携推進室及び各地区分室の機能並びに広報体制を強化する。	（大学）地域自治体や企業、医療機関、その他団体と提携を結び、地と知の永続的な共生と発展のための様々な取組を展開しており、その内容は、広報誌「順天堂だより」やソーシャルメディアを通して広報している。特に本学ホームページにおいて、迅速に情報公開を実施した。
28）高大接続の取り組みを推進し、生徒が大学の高度な教育・研究にふれる機会を拡大することにより、将来を担う世代の育成を行う。	60）高大接続の取り組みを推進するために、教育についての情報交換及び交流による双方の教育の質向上を図る。	（医）高大接続の一環として、本郷・お茶の水キャンパスにおいて高大連携イベントを開催した。令和5年度は7校からの参加を受け入れ、医学部の紹介、医学教育歴史館の見学、シミュレーションセンターを活用した外科手技体験実習、医学部学生との交流会など、高校生の学習意欲を掻き立てる教育イベントを実施した。 （スポーツ健康）高大接続の一環として高等学校等で実施される出張模擬授業等への参加やキャンパス見学の受け入れ等、高等学校との交流を深めるための取り組みを積極的に行った。高等学校との一層の連携強化を図るべく複数の候補先と新たな連携協定締結に向けた協議を重ねている。 （医療看護）高大連携活動として高等学校への出張模擬授業を積極的に行い、高等学校・大学が双方の教育に触れる機会の創出に努めている。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		（保健看護）県内高等学校への出張授業により本学部教育の理解を深めること、高校生の大学見学等から学生及び教職員との交流の門戸を広げている。高大接続を推進するため、県内を中心とする高等学校訪問を継続し、毎年高等学校教諭向け説明会を開催している。 （国際教養）高大連携協定校と継続的なブリッジ授業等の高大接続プログラムを実施し、大学教員による授業や大学生との交流を通じて、高校生が将来像を考え、大学で学ぶ意欲向上に繋がっている。出張講義や生徒のキャンパス見学に積極的に対応し、高校側・大学側双方の教職員が互いに訪問し意見交換を行っている。連携プログラム以外でもゼミナールに生徒が参加するなど交流の幅が拡がっている。教職課程履修者の教育実習を高大接続提携校で行い、高校側生徒と本学部学生の双方の教育の質の向上を図っている。 （医療科学）高大接続の一環として、出張模擬授業等に参加し、学校訪問を実施して高等学校との交流を深める取り組みを行っている。 （健康データサイエンス）高大接続の一環として、出張模擬授業等に参加し、学校訪問を実施して高等学校との交流を深める取り組みを行っている。また高校探究型授業における成果発表時の評価者として教員を派遣している。

Ⅴ　国際

中期目標	中期計画	当期の実施状況
Ⅴ　国際化に関する目標 29）世界的研究・教育拠点として、研究・教育の国際化の一層の推進を図る。	**Ⅴ　国際化に関する目標を達成するための計画** 61）国際的な視野を持って世界で活躍できる人材を育成するために、海外の大学との交流協定を活用し、国際プロジェクト・プログラムや現地体験型学習に学生を派遣し、積極的な参画を推進する。	**Ⅴ　国際化に関する目標を達成するための実施状況** （大学）新たに 3 機関との交流協定を締結した。 （医）医学部 5 年次の臨床実習（選択実習）、6 年次の学生インターンシップ実習において、学生の海外研修を推奨している。令和 5 年度には 33 名が海外研修（実習）に参加した。 （スポーツ健康）令和 5 年度は、新たにフィリピン・セブ島での海外語学研修を開始し、12 名の学生が参加した。また、「カセサート大学（タイ）」との交流プログラムの一環として、先方から学生 12 名、教員 3 名を招き、研究発表やスポーツレクリエーション体験等を通じて交流を図った。 （医療看護）交流協定を締結している海外の大学 3 校を中心に現地派遣により交流を行っている。令和 5 年度はイギリス研修とアメリカ研修を実施し、現地大学の学生との交流も行った

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		（保健看護）ユヴァスキュラ応用科学大学と MOU を締結し、オンラインでの共同授業を実施している。令和 5 年度は、アメリカ合衆国（パサディナ州）、ウズベキスタン共和国、フィンランド共和国（短期・長期）で海外研修を行った。 （国際教養）シンガポール国立大学日本語クラスで学ぶ学生と本学学生とのオンライン交流会を継続している。フィリピン・セブ島現地での英語集中学習プログラムは、48 名（夏季 46 名、春季 2 名）の学生が約一か月間の研修に参加した。また、セブ島では、2 年生以上を対象にフィールドスタディーを実施し、現地で使われる言語の見識を深め、課題提起型アプローチにより貧困・ジェンダー・保健医療に関する問題に取り組む課題提起型グローバル英語実践研修を行った。課題提起型グローバル英語実践研修は春季にアメリカハワイ州でも行った。タイのマヒドン大学との共催セミナーやフィールドワークを通じてプライマリケア・地域保健・国際保健などを学ぶグローバルヘルス海外短期研修を行い 18 名が参加した。春季フランス研修は、語学研修の他、現地高等学校で日本語・日本文化を教える TA プログラムを行った。 （保健医療）保健医療学部の国際化を推進し、国際通用性のある人材を育成するため、国際交流委員会を毎月定例で開催している。令和 5 年度において、理学療法学科では台湾及びカナダ、診療放射線学科では台湾に学生を派遣し、短期留学を実施した。 （医療科学）学生の短期海外研修として、臨床検査学科は 9 月にカンボジア、臨床工学科は 3 月にタイへ研修に行った。タイのタマサート大学とのＭＯＵ締結により、学生・教員の研究による交流も進める検討を行っている。 （健康データサイエンス）語学研修を目的に、夏期休暇を利用し、セブ島にて短期語学研修を行った。
30）世界的研究・教育拠点にふさわしい国際交流を展開するとともに、外国人留学生の戦略的受入と質の高い学生交流を促進し、多文化の理解とコミュニケーション能力の強化を図る。	62）国際社会で活躍する人材育成を目指し、学部生及び大学院生の海外の大学への派遣数を増加させる。	（医）医学部、大学院医学研究科においては、海外研修を推奨し、海外での研修実績に応じた単位認定を行っている。令和 5 年度には海外研修に参加した学生は、医学部 33 名、医学研究科 5 名であり、それぞれ該当する授業科目の単位認定を行った。 （スポーツ健康）令和 5 年度は新たにフィリピン・セブ島での語学研修を開始するとともに、英国を中心に協定校の新規開拓、語学研修プログラムの企画・検討を進めている。 （医療看護）昨年度まではコロナ禍によりオンラインで実施して

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		いた研修も、令和５年度は全面的に現地派遣での実施を再開した。イギリス研修とアメリカ研修を実地開催し、計 15 名の学生が参加した。 （保健看護）オンラインで海外の学部と交流を継続させ、将来的な短期研修生の受け入れ準備のため、環境整備を進めている。 （国際教養）学生本人、留学支援団体、大学との連絡を密に管理体制を強化している。留学先のプログラム、学習内容に応じて、教授会で単位互換認定を行っている。 （医療科学）タマサート大学とＭＯＵ締結しており、専門的な学びに加えて多文化理解を深めるため環境整備について、国際交流委員会で検討している。 （健康データサイエンス）インドネシア国立アイルランガ大学とＭＯＵの締結を進めており、令和６年度における本学学生の派遣だけではなく同大学学生の受入も予定している。
31）世界的研究・教育拠点にふさわしい研究・教育環境の整備と国際的な産学官連携や研究協力支援を推進し、国際社会との連携強化を図る。	63）教育の国際化を推進するために、英語による教育課程など海外の学生にとって魅力あるプログラムを整備・充実する。	（大学）ＪＩＣＡと研修員受入に関する覚書に基づき、13 名の研修員を受け入れている。 （医学研究科）シラバスを英文併記としている。また、令和４年度から秋入学（10 月入学）の大学院生を受け入れ、英語による授業の受講のみで修了が可能となるよう、授業科目を拡充した。 （スポーツ健康科学研究科）外国人留学生の増加を目的に、英語による授業科目を増加させるため、国際委員会が中心となり自動翻訳システム等を導入した。これにより、大学院の国際化を更に加速させることとしている。 （医療看護学研究科）大学院医療看護学研究科のグローバルナーシングコース（博士前期課程）、グローバルナーシングリーダーシップコース（博士後期課程）において、留学生を対象に英語による授業を実施している。その他、博士前期課程において、日本人学生と留学生が合同で受講できる授業（グローバルメディカルコミュニケーション）を実施している。 （保健看護）ユヴァスキュラ応用科学大学と英語による共同授業を行なっている。 （国際教養）中国の河南師範大学との交換留学を行っており、令和５年度は 10 月から１年間、15 名の学生を受入れている。（令和４年度は７名） （保健医療）本学部と MOU を締結している海外の大学を中心に、台湾から２名、イギリスから１名の学生を短期で受け入れた。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	64）留学生向けプログラム及び受入体制の整備・拡充を通じて、外国人留学生の受入数を増加させる。	（大学）国際教養学部における留学生受入プログラムとして「日本語・日本文化研修プログラム」を開設している。このプログラムを通じ、協定校から 15 名の交換留学生を受け入れた。 （医）医学部においては外国人選抜、大学院医学研究科においては外国人留学生入試、外国在住外国人留学生入試（渡日前入学許可制度）を実施し、外国人留学生の受け入れを推進している。令和 2 年度から履修証明プログラム（国際医療人養成プログラム）を実施し、外国の医師免許を持つ医師に対して、日本の医師養成のための医学教育を施し、日本の医師免許取得に必要な知識を習得させ、国際的な視野を有する医療人の育成を行っている。令和 5 年度 65 名、令和 4 年度 30 名、令和 3 年度 18 名、令和 2 年度 10 名が本プログラムを修了している。 （スポーツ健康）令和 5 年度は協定校であるタイ・カセサート大学から学生・教職員を招き、交流体験を行なった。今後も交流協定を締結している海外の大学を中心に、短期留学生の受入れを推進する。 （医療看護）大学院医療看護学研究科のグローバルナーシングコース・グローバルナーシングリーダーシップコースを設置し、外国人留学生の受け入れを促進している。 （国際教養）入学者選抜試験において、総合型選抜方式と同時期に「外国人選抜」を実施し、外国人留学生の受け入れを推進している。同選抜を 2 回実施することにより留学生の受験機会を増やし受入数の増加を図っている。また、日本の大学で教育を受ける目的をもった外国人や、海外での経験や感性を帰国後に活かしていこうという日本人に門戸を拡げ、海外の大学を卒業する前の日本の春季（4 月）に、国外在住者を対象に外国人選抜・帰国生選抜を実施している。 （医療科学）多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、帰国生徒選抜、外国人留学生選抜を実施している。 （健康データサイエンス）多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、帰国生徒選抜、外国人留学生選抜を実施している。特に外国人留学生選抜においては選抜を 3 回実施することにより留学生の受験機会を増やし受入数の増加を図っている。
	65）教育の国際化を担う優秀な外国人教員や海外で学位を取得した日本人教員の受入数を増加することで、カリキュラムや教育内容の国際化を推進する。また、外国人医学生を受入れ、本邦の医師国家試験合格者を養成するとともに、本学での臨床研修、大学院進学と専門医資格と学位（博士）取得者の増	（大学）長期的に本学の国際化を担う教員養成も見据えて、外国の医師免許を持つ医師に対して、日本の医師養成のための医学教育を施し、日本の医師免許取得に必要な知識を習得させ、国際的な視野を有する医療人を育成する履修証明プログラムを実施している。令和 5 年度の同プログラム修了者のうち、外国の

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	加を目指す。	医学部を卒業し日本の医師免許を取得した医師６名が初期臨床研修医として本学に入職した。 （医）国際臨床医・研究医選抜（外国人選抜）において、外国人医学生を受け入れ、卒業後は本学医学部附属病院群で臨床実習を行うことを推奨している。 （スポーツ健康）スポーツ分野で活躍する外国人教員を採用し、運動部指導のみならず、授業においてもその優れた技能や経験を学生に教授している。 （国際教養）定年退職した英語科外国人教員を特任教授として継続して雇用するとともに、外国人嘱託教員を増員採用し、学生の英語力向上、TOEFL スコアアップに向けた学生教育の充実を図っている。
	66）国際通用性を涵養するためＥＣＦＭＧ、ＬＣＭＥ、ＧＭＣ等欧米の国際的に通用する医師申請資格取得のための教育を強化するとともに外国人患者受入のアクセスを高め、急増するインバウンドニーズへ対応するためのシステム構築を図る。	（医）順天堂国際医学教育塾にて、USMLE コース、TOEFL iBT・IELTS 対策コース、Clinical Skills Workshop を実施し、国際通用性の涵養を図っている。塾の各コースは、本学医学部学生、大学院生、臨床研修医、若手医師等、所属を問わず参加することができる。急増するインバウンドニーズへ対応の一環として、医学研究科修士課程では、認定医療通訳者を育成するヘルスコミュニケーションプログラムを開講している。
	67）外国人留学生の受入れ及び外国人教員・研究者との交流を促進するため、専任スタッフ及び専任教員を拡充し、国際交流センター機能の強化を図る。	（大学）専任スタッフ及び専任教員については各学部から拡充を図り、各学部との連携のハブとして国際交流センター機能の強化を達成する。長期的な人材育成に係る課題として引き続き検討している。
	68）諸外国との共同研究や国際交流を推進し、我が国の科学技術イノベーションの創出を推進するとともに、我が国の科学技術交流の推進に貢献する。	（大学）協定校との学術シンポジウムを 2 回開催した。また、海外の教育・研究・医療機関からの来訪を 13 件受入れた。これにより教育・研究面の国際化を推進した。 （スポーツ健康）タイ・カセサート大学との国際交流プログラムの一環として、大学院生も含めた合同研究発表会を実施した。またスポーツ健康医科学研究所において、中国より 3 名の先生方を招きシンポジウムを開催するなど、教育・研究面での国際化を推進した。 （医療看護）タイのタマサート大学から講師を招聘して国際交流講演会を実施した。 （国際教養）コロナ前に開催していたシンガポール国立大学との合同国際フォーラム「持続可能な健康長寿社会」を、シンガポール国立大学の他、韓国延世大学、米国マイアミ大学から高齢

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		化研究の専門家を招聘して、国際交流シンポジウムとして開催した。 （保健医療）カナダ、タイ、台湾から理学療法領域・診療放射線領域を専門とする講演者を招聘し、国際シンポジウムを開催した。

Ⅵ 運営

中期目標	中期計画	当期の実施状況
Ⅵ-1　組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標 **（1）組織運営の改善に関する目標** 32）世界的研究・教育拠点としての諸活動を支える基盤となる組織運営体制を強化するとともに、効果的な大学運営を推進する。	**Ⅵ-1　組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画** **（1）組織運営の改善に関する目標を達成するための計画** 69）学長のリーダーシップの下、法人部門と各地区部門との連携機能を強化し、各地区における将来構想実現を促進するために全学的な教学マネジメント体制の強化を図る。	**Ⅵ-1　組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための実施状況** **（1）組織運営の改善に関する目標を達成するための実施状況** （大学）教学マネジメント指針の制定にともない、学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に教学マネジメント体制の確立を目指して、「大学評価支援室」「アドミッションセンター」、「情報戦略・ＩＲ推進室」が連携した教学マネジメント確立に向けた取り組みについて、内部質保証推進委員会により検証した。
33）世界的研究・教育拠点としての諸活動を促進するために、優れた人材の確保と教職員の資質の向上を図る。	70）教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価の実施と評価結果の活用を図る。	（医）教員業績評価は昇任時及び任期更新時に実施しているが、令和４年度からは、任期を迎える基礎系教員を対象とした新たな教員評価制度を導入した。評価は教員人事委員会が所管し、令和４年度 24 名、令和５年度 33 名の評価を実施した。 （スポーツ健康）教員の業績評価を昇任時及び任期更新時に行っている。 （医療看護）教員の業績評価は、昇任時及び任期更新時に行っている。教員の昇任・採用時は「医療看護学部専任教員昇格・任用基準（内規）」に従い実施している。 （保健看護）教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価の実施と評価結果を活用している。 （国際教養）教員業績評価を任期更新時に実施しており、「教員在任期間における教育・研究活動等報告書」を整備し、任期更新審査時で活用している。 （保健医療）教員の業績評価は、昇任時及び任期更新時に行っている。 （医療科学）教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価に取り

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		組んでいる。 （健康データサイエンス）教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価に取り組んでいる。
（2）事務等の効率化・合理化に関する目標	**（2）事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画**	**（2）事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための実施状況**
34）大学経営を担うマネジメント人材の育成を推進するとともに、業務処理の簡素化・統一化、ＩＣＴの活用により、事務の効率化・合理化・標準化を一層推進する。	71）優れた人材確保のために、人事制度改革を検討するとともに、全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進し、組織運営の改善に資する知識・能力を向上させるための研修プログラムを開発し、実施する。	（大学）医師の働き方改革に対応するため、各附属病院にて必要とする特例水準の申請を行い、指定を受けた。また各附属病院にて人員配置やタスクシフト等、医師を含む医療従事者全体の負担軽減策の検討を行っている。 職員全体のレベルアップと働きやすい職場環境の構築を図るため、階層別研修プログラムの大幅な見直しを行った。新入職の事務総合職についてＯＪＴトレーナー制度を導入することとし、トレーナーとなる職員の教育研修を行っている。
	72）業務を継続的に見直し、共通業務の一括処理（処理方法の統一化）、効果的な外部委託、事務のＩＴ化、契約業務の適正化を推進する。 また、事務職員に高い専門性を維持しつつ広い視野を持たせるため、国際通用性を涵養するための語学における資質向上を図るとともに、他大学との共同ＳＤ研修を通し、共通課題を検証し、問題に即応した課題解決を通じてコミュニケーション能力やマネジメント能力の高度化を図るＰＢＬ型研修の拡充を通じた人材育成を行うなど、事務職員の資質向上を図る。	（大学）本学のＤＸ化推進として、学内ポータルサイトの問合せフォームを「問合せ管理システム（FreshDesk）」に変更、総務部文書・広報課、人事部、健康安全推進センター、本郷地区情報センターを中心に運用を開始し、問合せ窓口の一本化、内容に応じた担当部署の自動割り振り、問合せ対応ナレッジの蓄積を推進している。 本学のＤＸ化推進として、電子稟議・承認システム（Agileworks）の使用を推進しており、マスメディア取材受付申請書等の統一フォームの申請書の運用移行で、利用範囲は全学に拡大できたことから利便性をより理解され、各部署のペーパーレス化、Agileworks 利用による業務効率化の啓発を継続する。 コロナ禍の収束に伴い、他大学との共同研修や階層別研修について、対面によるグループワーク形式にて開催し、職員の問題解決力向上を図った。語学研修については参加機会向上のため、引き続きリモート形式にて開催し、語学力向上を図っている。 （スポーツ健康）職員の業務について継続的に見直しを行っている。総務課が中心となり Agile Works や Google Workspace などを積極的に活用し、各種申請手続きのデジタル化などを進めている。
Ⅵ-2　外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目	**Ⅵ-2　外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目**	**Ⅵ-2　外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目**

中期目標	中期計画	当期の実施状況
標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標	**標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための計画**	**標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための実施状況**
35）研究力強化のために、文部科学省科学研究費補助金をはじめ共同研究講座・寄付講座等の外部資金による研究費の増額を図る。	73）外部資金等の獲得に向けた取組を強化するため、研究戦略推進センター研究戦略室を中心として、文部科学省科学研究費、ＡＭＥＤの事業採択に向けて研究者の支援の強化を図る。企業等からの共同研究講座・寄付講座の拡充を図るために、異分野連携共同研究や開発型の大型共同研究の促進を目指す。また異分野連携推進のためのシーズを取りまとめ発信するＩＣＴ環境を整備し、活用を促す。	（大学）外部資金獲得に向け、研究者と支援部門が連携して取り組んだ結果、寄付講座・共同研究等講座数は令和５年度（年度内に終了した講座を含む）は、62 講座（寄付講座 12 講座、共同研究講座 46 講座、産学協同研究講座４講座）が設置された。文部科学省科研費について 782 件 1,725,635 千円と前年度より増加し、件数・金額ともに私学第３位を維持した。 革新的医療技術開発研究センターにおいて、研究シーズの社会実装や産学連携のマッチングをＧＡＵＤＩプログラムにより促進した。
36）無駄な経費を抑制し、一層のコスト意識の徹底を図る。	74）外部資金の獲得について公募情報の積極的な提供及び採択に向けての研究者支援体制を強化する。	（大学）研究者向けの学内広報（主にメール配信）により公募情報の積極的な提供に取り組んだ。応募申請の際にＵＲＡによる申請書のレビュー対応を強化した。
37）運用資金を含めた資産の効率的な運用及び管理体制の強化を図る。	75）大型の競争的資金を積極的に申請するとともに、研究費管理システムのバージョンアップ等管理の強化に努める。	（大学）研究者が大型競争的資金に挑戦しやすい環境を整えるため、大型研究資金を目指す研究者向けのプロジェクト研究費の配分を昨年度に引き続き実施した。研究シーズの社会実装を目指す研究者支援を多様化するため、実用化研究及びスタートアップ支援制度を構築した。
	76）一層の情報公開を進めることによりコスト意識を高め、財務体質の強化、外部格付（R&I「AA」）の維持・向上に努める。また研究基盤センターの管理運営体制の見直し及び研究経費の効率的運用を図るとともに、施設・設備の更なる共同利用を推進し、より一層の効率化を実現する。	（法人）決算状況についてはホームページに公開しているほか、学内に対しても大学運営連絡協議会や各学部教授会において財務状況報告を行う等、情報公開を積極的に進め、コスト意識を高めた。外部格付（Ｒ＆Ｉ）は「ＡＡ安定的」となっている。
	77）資金運用委員会の検討等を踏まえて運用資金を含めた資産の効率的な運用を進める。	（法人）半期ごとに資金運用委員会を開催、運用資産のモニタリングを通じて効率的な運用を検証した。外部委員より内外の金融・経済情勢のレクチャーを受けて運用銘柄選定の参考とする等、資産の質の維持を図った。
Ⅵ-3　評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標	**Ⅵ-3　評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための計画**	**Ⅵ-3　評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための実施状況**
38）自己点検・評価及び第三者評価機関等による評価を実施するとともに、その評価結果に基づき、内部質保証システムにより教育研究活動・大学運営の改善に資する仕組の強化を図る。	78）自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行うなど、内部質保証システムの機能を高め、着実な教育研究活動・大学運営の改善を効果的に推進する。 教育の内部質保証にあっては、教育の状況・活動の実態を示	（大学）第 17 次(令和４年度)自己点検・評価を行い、課題を把握しており、令和６年度に令和５年度中に対応したことを検証する。教育の質保証に当たって、内部質保証推進委員会にて、ディプロマ・ポリシー、コンピテンシー達成度評価で先行する

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	すデータを適切に収集・分析して教育現場にフィードバックする教学ＩＲ体制の整備を図る。	学部の事例共有を図った。またディプロマ・ポリシーに示した学修成果の評価が可能となるように、アセスメント・プランの改正を行った。カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについて、令和４年度より、良好事例を参考に、改善に向けて検討を進め、令和５年度に、全学部・研究科のカリキュラムマップ、カリキュラム・ツリーが揃った。引き続きフォローアップを行う予定である。第三者評価として、（公財）大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審した。評価の結果、大学基準適合の認定を受けた。評価結果で提言を受けた改善課題については、指摘された学部・研究科での改善活動とあわせ、内部質保証推進委員会を中心として、全学的にその改善状況をフォローアップする予定である。 教学マネジメントの実質化を図るために「教学ＩＲデータ取扱要領（5 月 1 日付）」を制定し、教学データの取扱をルール化した。教学データの可視化と利活用の推進を図るために「情報戦略・ＩＲ推進室運営規則（6 月 1 日付）」を改正し、情報戦略・ＩＲ推進室に「教学 IR 推進分室」を設置した。 （医）自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップ項目については教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となって改善を図っている。 （スポーツ健康）自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行っている。教授会を中心に各委員会が連携して、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場の改善に生かしている。 （医療看護）自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行っている。教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となり、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場にフィードバックしている。また、教務システムを通して学生の学修ポートフォリオを作成し、成績情報をもとに学修成果の修得状況を”学修度”として可視化（グラフ化）する環境を整えた。 （保健看護）大学の中期計画を踏まえた本学部独自の年度計画を策定し数値目標を設定している。自己点検・評価を通じて把握した課題を情報共有し、その成果については検証を行い、各委員会活動において教育研究活動・大学運営の改善に向けた対応を検討している。 （国際教養）自己点検・評価を通じて把握した課題、内部質保証推進委員会からの指摘は学部内で共有し、関係各委員会で検討・対応することにより、学部教育活動の改善に向けて取り組

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		んでいる。 （保健医療）自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップについて、教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となり、改善を図っている。 （医療科学）自己点検・評価を通じて把握した課題、内部質保証推進委員会からの指摘を学部内で共有し、関係各委員会で検討・対応することにより、学部教育活動の改善に向けて取り組んでいる。 （健康データサイエンス）自己点検・評価を通じて把握した課題、内部質保証推進委員会からの指摘を学部内で共有し、関係各委員会で検討・対応することにより、学部教育活動の改善に向けて取り組んでいる。
39）世界的研究・教育拠点としての順天堂大学における教育・研究・診療に関する取組や国内外の他大学との連携交流に関する諸活動を情報公開し、積極的に国内外に情報発信する。	79）大学の教育・研究・診療活動の状況を恒常的かつ継続的に国内外に発信するために、学内外の情報収集や発信等を効果的に遂行する体制や手法を強化し、マスコミ等に対するプレスリリースを拡充する。	（大学）大学情報をよりわかりやすく伝えるよう、大学ホームページのリニューアルを実施した。 プレスリリースにおいては、医学系研究成果リリースを中心に各部門（大学及び附属病院）の取り組みを積極的に発信している。
	80）順天堂ブランドとなる教育・研究・診療活動を可視化し、大学ブランドイメージの発信及び支援層の拡大を目指す。正確かつ迅速な情報発信にとどまらず、他大学にはない個性や魅力に満ちた諸活動を Web サイトなどの様々な広報媒体により国内外に紹介するとともに、外部の多様なメディアなど社会とのネットワークを最大限活用し、情報の浸透・拡散を促進する。	（大学）オウンドメディア（GOOD HEALTH Journal）を通じ、各学部を網羅し記事を展開することにより、本学の取り組みを幅広くかつ深堀して紹介し、健康総合大学・大学院大学としての理解促進、ブランディング強化を図っている。 順天堂 YouTube チャンネルを活用した広報展開も進め、令和 5 年度初に約 1.9 万人の登録者数は、年度末には約 2.9 万人へ増加した。 広報誌「順天堂だより」及びグローバル広報誌「Juntendo NEWS」（英語版・中国語版）の発行を通じた国内外への情報発信を行っている。
Ⅵ-4　施設設備の整備・活用等に関する目標	**Ⅵ-4　施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための計画**	**Ⅵ-4　施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための実施状況**
40）世界的研究・教育・診療拠点にふさわしいキャンパス・附属病院の環境を計画的に整備する。	81）大学キャンパス・ホスピタル再編事業を踏まえ、各キャンパス機能の再整備と推進を図り、教育研究環境の改善・強化を推進する。	（本郷・お茶の水キャンパス） 国際化をより一層進めるため、本郷・お茶の水キャンパスの近傍に留学生寮を新築工事中。令和 6 年 8 月竣工予定。 ニューロン-グリアクロストークセンターが文科省補助事業に採択され、建設予定地の既存建物の解体工事を実施し、新築工事に着手した。国内他大学のみならず世界的な研究拠点として整備する。令和 7 年 3 月竣工予定。

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		(さくらキャンパス) 令和5年10月に第3体育館(新体育館・プール・さくらキャンパス診療所)の供用を開始した。診療所については整形外科を中心に1日平均30名前後の学生が受診している。また2号館(講義棟)の改修工事を順次実施しており、健康総合大学院大学に相応しい教育環境の整備を進めている。 (浦安キャンパス) シミュレーション教育研究センター内の設備拡充を進めており、専用Wi-Fiの設置や、順天堂医院の電子カルテを疑似体験できるようなシステム環境の整備を進めている。A棟の空調設備更新工事（3年計画）が進行しており、かねてから懸念されていた基礎看護実習室での実技演習時の温度管理が容易になり、快適な環境で授業を行えるようになった。 (三島キャンパス) 令和6年4月160名への定員増に向けて、令和5年2月に校舎・体育館の新築工事に着手し、令和6年3月に竣工した。新校舎では学生が自ら学ぶ環境としてラーニングコモンズ、屋内運動スペースを整備するほか、併設する多目的スペースでは講習など幅広い活用を予定している。 (浦安・日の出キャンパス) 浦安・日の出キャンパスⅡ期工事は、令和4年4月に工事着手し、令和5年7月に完成した。Ⅱ期校舎（2号館）は、主に健康データサイエンス学部が使用するが、全学部共用のラーニングコモンズや学術メディアセンターも整備された。Ⅲ期工事（薬学部校舎建設）も、計画どおり順調に進んでいる。
41）地球温暖化等の環境に配慮した取組を進めるとともに、施設設備の適切な維持管理と有効活用を推進する。	82）医療の質の向上及び安心で安全な医療の提供を推進するため附属病院の施設設備の充実を図る。	(本院）1号館のエレベーター及びエスカレーターについては平成30年から既存不適格を解消するための改修工事を8年計画で実施しており、令和5年度中には3基の改修を終え、令和6年3月末時点でエレベーターについては全20基のうち15基の耐震改修工事を完了した。また、エスカレーター2基の改修には、令和6年3月に着手した。令和6年度に全昇降機の改修が完了する予定。令和3年4月に着手した1号館手術・中材部門の全面改修工事を継続して実施している。本工事は①設備老朽化対策、②ケースカート方式導入による業務効率化、③最新術式対応を目的とした全13ステップ（約54か月工期）の工事であり、令和6年3月末時点で75%の進捗となっている。 (静岡）医療の質向上及び患者利便性向上を図るべく行われた次の活動に必要な設備を整備している。①手術支援ロボット更

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		新、②増床・病棟増設、③歯科・歯科口腔外科開設、④PET-CT装置更新、⑤MRI 増設準備、⑥その他Ｈ棟Ⅱ期棟竣工に伴う機能移転・拡張準備。 静岡病院増改築計画は現在Ｈ棟Ⅱ期棟の建設工事を推進中で、令和６年３月末時点でのＨ棟Ⅱ期棟の進捗率は 97.0%、全体工程の 89.6%に到達した。Ｈ棟Ⅱ期棟は令和６年４月竣工予定、その後既存棟改修Ⅱ期工事に着手予定となっている。 （浦安）外来Ⅱ期・病棟改修（無菌室・分娩室）・設備更新工事については、実施設計・施工業者が決定し、各部門との実施設計を進めている。更に、結核患者収容モデル病床３床整備工事（千葉県補助金活用）、がん治療センター薬物療法ベッド６床増床工事（令和６年４月運用開始）を実施、3 TMRI を更新するなど、診療機能のアップを図った。令和５年 12 月には、医療システム（電子カルテ・部門システム・端末など）を更新し、診療の効率化、安全面の向上など充実を図った。 （越谷）一般病床 200 床開設の再編計画について、老朽化した昭和 43 年竣工の２号館（病棟）移転を含めた新棟建設の基本計画見直し及び実施設計を行い、令和８年の開設に向け準備を進めている。平成元年竣工の１号館については、再編計画後も使用継続のため、老朽化した非常用自家発電機の更新工事を実施した。 （高齢者）省エネ・CO2 削減のため、空調ポンプＩＮＶ制御化による運用と病棟・外来共有部の照明ＬＥＤ化工事を実施。 東京都による大規模な改修工事として、空調用ポンプ更新（12 月）とＲＩフィルターユニット更新（2 月）を実施。2024 年度夏期前までに一部居室と外来受付１のＦＣＵ能力増強（環境改善）を目的とした更新工事を予定している。 （練馬）令和３年度より整備５カ年計画として、重要な整備の部品交換及び更新を行っており、令和５年は、各センサー交換、水中ポンプ交換、設備インバータ更新を行い順調に進んでいる。また省エネ・CO2 排出量削減につきましても、同じく５ヵ年計画として順次ＬＥＤ交換を進めている。4 年度再編事業工事完了後、各種診療機能拡充の運営は順調に経過している。
	83）エネルギーの効率的な利用と省資源化を強化する。	（本郷・お茶の水キャンパス） 各地区とも CO2 削減ロードマップを作成し、省資源化に努めている。（継続）ＣＮＬ（カーボンニュートラルＬＮＧ）の導入に加え、新たに CO2 排出量を「±0」と見なすゼロエミッション電力の契約を締結した。CO2 排出量は計画通り減少してい

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		る。 （さくらキャンパス） 東京ガスのＰＰＡ型太陽光発電システムの導入に向け学内手続きが完了した。2025 年 3 月発電開始に向けシステム設置工事を進める。これにより、キャンパスの消費電力の 15%を再生可能エネルギーで賄うことが可能となる。また各施設の空調設備の更新を順次実施しており、高効率の設備を採用することにより省エネルギー化を進めている。 （浦安・日の出キャンパス） 千葉県の地球温暖化の C02C02（コツコツ）スマート宣言事業所に参画してエネルギーの効率的な利用と省資源化に取り組んでいる。
	84）施設設備を適切に維持管理し、効率的に運用する。	（本郷・お茶の水キャンパス） 設備の適切な維持管理とエネルギーの効率的な運用については鋭意改善に努めている。 （さくらキャンパス） 施設設備管理業務の仕様の精査/見直しを継続的に実施し、メンテンス内容などをチェックすることで設備の長期運用を図るとともに、突発的な故障やトラブルの軽減に繋げている。また、エネルギー使用量を意識した設備監視を実施し、省エネ化を図っている。
	85）万一の大規模災害時に備えるため、事業継続計画（ＢＣＰ）に則り、施設設備の整備を推進する。	（本郷・お茶の水キャンパス） 継続的に各地区のＢＣＰ計画に則り、井水プラントの新設、太陽光パネルの設置、受水槽からの直接採水、災害備蓄倉庫の拡充など必要な施設整備を継続的に進めている。 （さくらキャンパス） ＢＣＰの更新/充実化を進め、災害発生時の安否確認訓練などを計画的に実施している。来年度中に大地震を想定した実働型の総合防災訓練を計画している。備蓄品の見直しや更新・追加も計画的に実施しており、防災・減災に向けたキャンパスの強靭化を進めている。 （浦安キャンパス） 浦安市職員と年に１回災害時に本キャンパスが避難所となったときの対応について協議している。キャンパス内の自衛消防組織を設置している。 （浦安・日の出キャンパス） 浦安市より一般避難所の指定を受けた。浦安市防災無線の設置

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		と浦安市職員と災害時に本キャンパスが避難所となったときの対応について協議して運営マニュアルを作成している。キャンパス内の自衛消防隊組織も設置している。
Ⅵ-5　法令遵守に関する目標 ○法令順守に関する目標 42）研究不正及び個人情報漏洩防止を含め法令遵守に係る取組を強化するとともに、情報セキュリティ対策に取り組む。	**Ⅵ-5　法令遵守に関する目標を達成するための計画** ○法令順守に関する計画 86）各部門のコンプライアンス推進部門責任者、副責任者は、研究倫理の推進及び不正行為防止を図るため、部門内の研究活動及び研究費の運営・管理に関わる教職員等に対してコンプライアンス教育の実施、受講状況の管理監督を行い、統括管理責任者に報告する。	**Ⅵ-5　法令遵守に関する目標を達成するための実施状況** ○法令順守に関する実施状況 （法人）日本私立大学連盟版ガバナンス・コードが、【第1.1版】へ改正(R5.3.31）され、本学ガバナンス・コードを改正項目に準じて変更した。改正に伴い、個人情報保護に関する体制の整備と実効的な機能が求められたことから、個情法令和2年・3年の規程改正事項を踏まえ、順天堂個人情報保護管理規程を改正し、管理体制の整備と可視化を図った。 内部監査室は、監事及び会計監査人と連携しつつ、公的研究費等の運営・管理、並びに5キャンパス（8学部・4研究科）・6附属病院・法人本部を対象とする法令・学内ルールの順守状況及び日常業務の効率的かつ適正な執行について内部監査を実施している。 （大学）部門内の研究活動及び研究費の運営・管理に関わる教職員等に対してコンプライアンス教育としてAPRIN e-learning、JSPS eL CoREの受講を義務付け（5年毎）、Ｗｅｂ上で受講を確認している（令和5年度の競争的研究費申請者の受講率は100%）。 学部学生に対しては講義の中で研究倫理教育の講義を実施し、ている。大学院生（修士・博士）は、講義及びｅラーニングにより研究者と同様にすべての大学院生に受講を義務付けている。受講状況は、文部科学省への報告事項のため最高管理責任者及び統括管理責任者へ報告している。
	87）法令順守のための助言・支援を担当するほか、各種プロジェクト、各種契約における大学の正当な利益を保護するための助言・支援を専門的な見地から担当する法務スタッフの充実・整備を図る。	（大学）弁護士資格を有する職員を任用し、人事・研究支援等の課題を中心に助言を受けている。
	○研究不正に対する防止策に関する計画 88）研究活動に係る不正行為の防止を図るため、研究倫理教育部門責任者は、教職員・学生等に対する公正な研究活動を推進するため、研究倫理の推進に関する定期的な教育（e-Learning等）、研究分野及び部門等の特性に応じた研究資料等の保存方法の策定及び管理に関する教育、研究者等に対す	○研究不正に対する防止策に関する実施状況 （大学）順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領に則り、研究活動に携わる教職員に対して研究倫理教育APRIN e-learningプログラム（eAPRIN）の受講を義務付けるとともに、学内の研究者、研究支援者向けに研究不正防止を趣旨としたセミナーを開催した。本学における公正な研究活動を推進するため「順天

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	る研究資料等の作成及び保存に関する教育を行う。	堂大学における研究倫理推進計画（2023）」を更新し、研究活動に係る不正行為の防止及び不正行為が生じた場合の措置について周知した。 （医）順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領に則り、医学部学生、医学研究科大学院生に対して、研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）の受講を課している。医学研究科にて研究ガイドラインを策定し、大学院生に配布している。 （スポーツ健康）教職員・大学院生の研究倫理に関する教育を推進するため、研究倫理教育プログラム（独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の「研究倫理 e ラーニングコース」又は一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）の「e ラーニングプログラム」のいずれか）の受講と修了を義務付けている。 （医療看護）APRIN e-learning プログラムを導入しており、教職員・学生においては倫理審査申請にあたり事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。 （保健看護）研究倫理教育として「APRIN e-learning プログラム」を導入し、研究等倫理委員会から定期的な受講を教員に周知、必須化している。7 月に全教員を対象に倫理講習会を実施し、コンプライアンス遵守を図っている。 （国際教養）教職員に対しては研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム(eAPRIN)の受講を義務付けており、学生に対しては 1 年次必修科目「文章表現法/論文・レポートの書き方」の中で、学部独自教材「論文レポートの書き方_マニュアル」と教科書「アカデミックスキルズ」を用いて、研究の方法、引用方法、剽窃行為等の研究倫理教育を実施している。 （保健医療）全学生に対し、必修科目内にて研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）の受講を課している。 （医療科学）教職員に対しては、研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム(eAPRIN)の受講を義務付けている。研究に関与する学生に対しても、同様に同プログラムの受講を義務づけている。 （健康データサイエンス）教職員に対しては、研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム(eAPRIN)の受講を義務付けている。研究に関与する学生に対しても、同様に同プログラムの受講を義務づけている。
	○情報セキュリティに関する計画 89）情報セキュリティレベルの向上と教職員・学生等の情報に係る法令遵守の意識の向上と徹底を図るために、組織的に運	○情報セキュリティに関する実施状況 （大学）本郷・お茶の水キャンパス学部生に対してセキュリティ講習は継続して実施している。サイバー保険継続、各種セキ

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	用・管理体制を確立するための体制整備、認証基盤の充実、情報セキュリティ・ポリシーの定期的な見直し、セキュリティ対策、学内構成員に対する講習会等を行う。	ュリティサービス（ＦＷ、ＭＤＭ、ＤＮＳセキュリティ、ＥＤＲ等）契約のほかに、学内ＬＡＮへの接続装置も高セキュリティ・順天堂メール認証連携・Ｗｅｂブラウザでソフトウェアインストールしなくても使える、利用者に使いやすいサービス（Ivanti→AkamaiEAA）へ変更している（令和６年３月）。2024 年度のＪＣＩ更新において医療情報システムのセキュリティ監査実施に向け、ＪＣＩ認証病院に情報収集を行い、それを参考に内部でのセキュリティアセスメントと合わせて第３者評価の準備を進めている。JIN-CSIRT の活動の一環として、日本 CSIRT 協会のサイバー攻撃の机上訓練に参加した。その知見を活かして令和６年度上期に附属病院システム管理者に対してサイバー攻撃を受けた時の机上訓練実施案を作成中である。教職員へのセキュリティ講習として令和６年度の順天堂医院セーフティレクチャーに組み込むようにし、引き続き情報セキュリティ・ポリシー定期的更新を行う。また令和５年５月に厚労省の医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（第６版）にサイバーセキュリティに対する考え方が追加されたため、「ゼロトラスト」の考えに基づき患者データおよび診療業務が停止しないようガイドライン遵守のための対応内容確認を行ない、セキュリティ対応内容が増えているため令和６年度に向けての健康データサイエンス学部、セキュリティ専門教員との連携・組織強化の検討を行なっている。